Ⅱ
履修概要

1　入学から卒業まで……26
2　履修登録……52
3　授業……53
4　単位制……57
5　学修成果……61
6　学修状況チェックシステム……65
7　学籍・修業年限・学費……67
8　学生サポート……71

1　入学から卒業まで

お茶の水女子大学では、確かな未来を担う人間を育成するために、学生が自律性と協調性を育み、論理的思考力と創造的探究心を習得できるよう、さまざまな教育方法を取り入れています。

とくに教育の基本をなす教養教育の特色は、「堅固な基礎的知識」の教授と「21世紀型リベラルアーツ教育」ですが、本学のリベラルアーツ教育は、問題を発見し、それを解決する能力を習得するお茶の水女子大学固有の教育プログラムで、既存の学問分野を越えた知識と学問の手法を提供します。

また、専門教育では、一人ひとりの意欲やニーズに柔軟に対応できるよう、それぞれの学部・学科ごとにプログラムを設けた「複数プログラム選択型」教育を平成23年度から新設致しました。より一層、学修の効果を期待しています。

本学では、上記目標を達成するために、1「コア科目」、2「専門教育科目」、3「自由に選択して履修する科目」の大きく3つの学修区分が設定されており、その中で必修科目・選択科目が配置されています。

なお、学生は本学に原則として4年以上在籍し、各自の所属する学部のガイドラインに従って、124単位以上（文教育学部人間社会科学科教育科学プログラムについては136単位以上、生活科学部食物栄養学科については138単位以上）の卒業要件単位を充足してください。

【学部・学科・主たるプログラムの構成】

文教育学部	人文科学科	哲学・倫理学・美術史プログラム、比較歴史学プログラム、地理環境学プログラム
	言語文化学科	日本語・日本文学プログラム、中国語圏言語文化プログラム、英語圏言語文化プログラム、仏語圏言語文化プログラム
	人間社会科学科	教育科学プログラム、社会学プログラム、子ども学プログラム
	芸術・表現行動学科	舞踊教育学専修プログラム、音楽表現専修プログラム
	人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科	グローバル文化学プログラム
理　学　部	数学科	数学プログラム
	物理学科	物理学プログラム
	化学科	化学プログラム
	生物学科	生物学プログラム
	情報科学科	情報科学プログラム
生活科学部	食物栄養学科	食物栄養学専修プログラム
	人間生活学科	生活社会科学プログラム、生活文化学プログラム
	心理学科	心理学プログラム
共創工学部	人間環境工学科	人間環境工学プログラム
	文化情報工学科	文化情報工学プログラム

(1)　コア科目

コア（core）とは芯という意味です。コア科目は、これからの学修・研究における社会的関心が高く現代世界を理解するうえで重要と思われる問題領域や視点を核とし芯（コア）となるべきものを、学生が主体的に模索し育成する際の一助となるよう設定されています。科目として、**文理融合リベラルアーツ、基礎講義、情報、外国語、スポーツ健康**に区分されます。

（参考）文教育学部－文教育学部履修規程P.240、理学部－理学部履修規程P.262、生活科学部－生活科学部履修規程P.274、共創工学部－共創工学部履修規程P.284

①　文理融合リベラルアーツ

1．「21世紀型文理融合リベラルアーツ」とは

学際的、実践的な力を身につけることで専門力を活かした進路を開拓するための教育プログラムです。基礎力とともに、知的な自由さを持った女性を育成することを目的としています。

本学HP：https://www.ocha.ac.jp/la/

お茶の水女子大学から世界に発信する文理を融合した学びで多様な進路を切り拓く

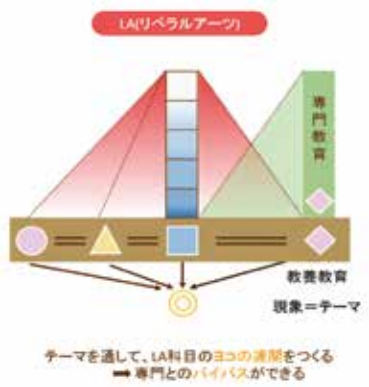
21世紀は、知識や技術の専門化・多様化と社会のグローバル化が並行して進んでいます。そこでは、私たちが学ぶ知識は、専門的でないと役に立ちませんし、同時に国や文化が違う相手にも伝える必要があります。

これまで大学では、専門教育の前段階として、教養教育を行ってきました。現代は、高度な専門教育を支えこれを使いこなすために、発信・交渉能力、領域横断的な視野、変化に対応する判断力を養う必要があります。知識そのものの基礎であり、生涯をとおして、学ぶ力をうることが、「21世紀型文理融合リベラルアーツ」の目的です。

文理を融合した学びを

わたしたちを取り巻く世界は、自然であれ技術であれ社会であれ、さまざまな要素が複雑に絡みあっています。大学では、専門的な学術というナイフで、複雑な現象を解析することを学びます。しかし、全体を展望するには領域を横断した知識が必要になっています。文系の人にも科学技術の理解が、理系の人にも人文社会の理解が不可欠になっています。文理融合リベラルアーツを学ぶことによって、教養教育（リベラルアーツ）の科目と専門の科目との間に連関が生まれ、領域を横断した視野が獲得されます。

事象を科学の眼で見つめ直すこと、歴史（成り立ち）から理解すること、表現の意味を考えること、それらは相互に結びついて、わたしたちのものの考え方に新しい光を投げかけてくれます。その知的発見の積み重ねは、女性がライフサイクルのさまざまな場面で遭遇する困難を突破する力を与えてくれます。一人ひとりが生涯にわたって活き活きと生きていくための力となるのが「お茶大リベラルアーツ」です。



現代世界のカギとなる５つのテーマ

プログラム「文理融合リベラルアーツ」では、文系理系にまたがる５つのテーマ；生命と環境、色・音・香、生活世界の安全保障、ことばと世界、ジェンダーに沿って、系列科目群をつくり、自然科学・人文科学・社会科学の３つの角度から多面的に学びます。

これにより、高度な専門教育を支え、使いこなすための領域横断的な視野、変化に対応する判断力、発信・交渉能力など、生涯をとおして、自在（リベラル）に使える技（アーツ）を育成します。授業科目には、「講義」と「リベラルアーツ演習」の２種類があり、これを組み合わせて、知識と実践力を高めます。「講義」は、２年間を１クールとして、当該系列の科目が開講されます。「講義」では、テーマに立脚した課題学習を通じて、学問分野の基本を習得するとともに、自然・人間・社会の関係や相互作用を多面的に理解することを目的にします。このほか、テーマに関連する系列演習（「おいしさのサイエンス」「手話学入門」）や学外での体験学習やボランティア活動を中心にした実習（海洋環境学ダイビング実習、NPOイ

ンターンシップ実習）も設け、実践力を養います。

いずれも21世紀の世界の鍵となるテーマです。どの系列でも文理双方から問題を問いかけ、ここを「切り口」として知識と経験を広げ、主題を根源から理解することがゴールです。

リベラルアーツ演習

少人数の演習形式で行われ、文献講読、フィールドワーク、口頭発表、討論などを組み合わせた半期編成の授業です。聞き・読み・語り・計り・作るという作業を通じて、読解・思考・コミュニケーションに必要な力と技術を養成します。文理融合リベラルアーツの５つのテーマに関連し毎年開講される系列演習科目もありますが、より視野を広くとり、４つの学部の専任教員が自由に対象やテーマを設定し、一定の切り口（観点・分析方法）にそって、授業を設計・運営します。文系・理系双方の学生が参加し、教員やまた学生とともに、新たなチャレンジをする授業をめざします。

専門力を活かした多様な進路を切り拓く

このような教育プログラムは、ひとつのキャンパスに人文科学、社会科学、自然科学の３つの系列の教員が集うお茶の水女子大学だからこそ、可能なのです。大学１～２年生の段階で「文理融合リベラルアーツ」によって学際的で実践的な力をつけることによって、専門力を活かした多様な進路が切り拓かれます。

２．履修方法

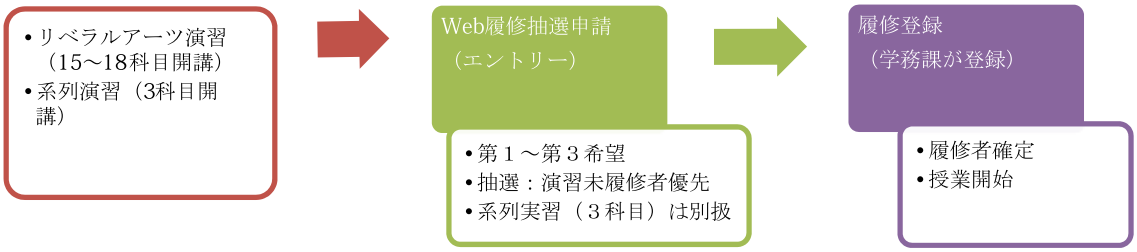
文理融合リベラルアーツ科目群は、コア科目の中のグループとして設定され、コア科目の単位として認定されます。同じ系列の科目のうち、任意の４科目（８単位）以上を履修しかつ文理融合リベラルアーツの学修ポートフォリオを提出した場合に、申請に基づき、成績証明書に「系列履修認定」が明記されます。

また原則として、「講義」科目は月曜・水曜の１・２限、３・４限および金曜の３・４限に開講され、「演習・実習・実験」科目は前学期の月曜・水曜の３・４限に開講されます。１、２年次に受講しやすいような設計となっていますが、受講年次の制限はありませんので、３、４年次も含めて計画的に履修できます。

「講義」科目には一部の例外を除いて、履修者の制限はありませんので、自分の希望する講義の履修登録を行ってください。

「リベラルアーツ演習」「系列演習」科目および一部の「実習」科目は、履修者数の上限を設けている場合があります。「リベラルアーツ演習」「系列演習」科目は、履修者の上限を原則20名としているため、履修抽選を行います。この抽選については、「リベラルアーツ演習」「系列演習」の未履修者（１年生など）を優先します。履修抽選にあたっては、第１希望から第３希望まで申請することが可能ですので、指定された期日までに、Web履修抽選申請入力を行ってください。抽選を実施する際は、学生ポータルサイトで、日程や詳細を周知しますので履修希望者は必ず確認してください。

演習（リベラルアーツ演習、系列演習）の履修方法



３．５つのテーマと開講科目一覧

生命と環境

生命を守るための環境への配慮（認識、働きかけetc.）を行うために必要となる、「複眼」的視野の導入を図ります。

前世紀、空前の環境ブームが起こり、生存の場としての環境の重要性が認識され、人々は環境との良好な関わりを保つことこそが、生命活動の確保に欠かせないことを知りました。

生命と環境との関わりを深く理解し、その上で新たなる共生の方法を創成することが、21世紀を生きる我々に課せられた重大な使命であると考えられます。

「生命と環境」の科目群では、実体験を通して多くの知識に触れることを重視しています。学問の緒に着いた学生にとって重要なことは、まずは経験と、体験です。これらを通して、「知識の引き出し」を増やし、知的好奇心を育むことだと考えます。これをもとに、生命を守るための環境への配慮を行うために必要となる、「複眼」的視野の導入を図ります。

●生命とは何か（生命と環境１～４）

現代科学における生命像、生命倫理、生物としての人とはどのようなものか、という問題を取り上げ、生命を多角的に捉えることを目指します。

●生命を取り巻く環境：自然環境（生命と環境５、6）

ヒトの営みとは無関係に存在する環境（自然環境）を取り上げ、天体としての地球とそこで繰り広げられる多様な環境の出現を扱います。

●生命を取り巻く環境：文化環境（生命と環境８）

ヒトとの関わりのもとで育まれる環境（文化環境）を取り上げ、ヒトとの文化の多様性とそれを育む環境の多様性、地域と風土、さらにはそれらとの共生の問題を扱います。

●生命・環境を「体験する」（生命と環境21、22）

湾岸生物教育研究センター（千葉県館山市）での合宿実習を通し、生命誕生のリアルタイム体験、海浜生物環境のフィールドワーク等を経験します。あらかじめ大塚キャンパスでの予備実習（顕微鏡観察の基礎等）を行うことで、初心者でも実習に参加できます。

系列１　生命と環境	
（講義）	（単位）
生命と環境１　生命の科学	2
生命と環境２　生命倫理と法	2
生命と環境３　多様性生物学	2
生命と環境４　生物人類学	2
生命と環境５　生命と環境の化学	2
生命と環境６　惑星地球の科学	2
生命と環境８　文化と環境	2
（演習・実習）	（単位）
生命と環境 21 海洋環境と生物多様性（実習）	2
生命と環境 22 海洋環境学ダイビング（実習）	2

色・音・香

色・音・香という身近な感覚、感性を共通の切り口とし、人間（生物）は自然界や社会的、文化的情報をいかに認識、受容し、利用していくのか、また社会的、文化的情報として蓄積していくかを探求し、広く人間と自然、そして社会との相互作用についての理解の視点を養います。

色・音・香の感覚を生み出す本体は物理学や化学を使って自然科学的に説明できるものです。しかしその感覚は、人や生物がそれらを受容し、認識することではじめて成立します。最初の過程は生物学、生理学、心理学的なものですが、その作用や影響は自然科学的であるだけでなく、社会、文化的な分野に広く及びます。色・音・香は、服飾、住居、食物といった私たちの生活様式や文化に大きく関わっていることはいうまでもなく、音楽、美術などの芸術、さらには宗教、心理、発達といった人間の内面や行動様式にも大きな影響を与えているのです。

講義科目は、自然・物質としての色・音・香を取り扱う（自然科学系）４科目（色・音・香１～４）、人間・感性・文化といった視点（人文科学系）からの４科目（色・音・香５～８）、物質・環境と人間生活といった視点（文理融合）（色・音・香９、10）からの２科目からなります。

リベラルアーツは、学び方を学ぶとともに、幅広い知識、人生観を養うためのものです。そして皆さんがこれから専門性を高め、深く学ぶための基礎にもなります。

感性とモチベーションを高め、楽しく学んでいきましょう。

系列２　色・音・香	
（講義）	（単位）
色・音・香１・分子から見た色と香り	2
色・音・香２・生命と色・音・香	2
色・音・香３・色・音・香の物理学	2
色・音・香４・コンピュータが創る色と音	2
色・音・香５・心の健康とジェンダー	2
色・音・香６・色・音・香と生活文化	2
色・音・香７・舞踊における色・音・香	2
色・音・香８・宗教と色・音・香	2
色・音・香９・おいしさと色・音・香	2
色・音・香 10・知覚認知と環境デザイン	2
（演習・実習）	（単位）
色・音・香 22・おいしさのサイエンス（演習）	2

生活世界の安全保障

私たちの生活を脅かす危険。そして、危険を克服し、安全を回復・維持する努力。人間社会の営みを危険と安全の相克としてとらえ、私たちの生き方や命のあり方を見つめ直します。

人間の生活世界には、日常の衣食住にまつわる事件・事故から、大災害や戦争のような脅威まで、多様な危険がひそんでいます。私たちは、これらの多様な危険に対処し、安全に生活を送るために、さまざまな社会的・技術的・文化的な措置を作り出してきました。しかし、そうした措置が、かえって危険を増幅したり、抑圧や不平等を招いてしまうこともあります。また時代が進むにつれ、テクノロジーの発展によって克服された危険がある一方で、グローバリゼーションの中で新たな脅威が生まれたりもしています。この系列の科目では、安全を守るために何が必要なのか、を考えることを通して、社会、技術、文化の相互関係をとらえ直し、同時に生命としての人間のあり方を考察します。

●日常生活の安全保障（生活世界の安全保障１～３、５）

現代はリスク社会だと言われるように、日々の暮らしの中にも、多くの危険がひそんでいます。労働、家族、情報社会などの観点から、生活の安全を維持・回復するしくみについて考察します。また、そうした社会的な取組が歴史的にどのように行われてきたのかについて、振り返って考えます。

●グローバリゼーションの中の安全（生活世界の安全保障４）

グローバル化する現代世界では、かつてとは異なる新たな危険が生じることがあり、その対応にもグローバルな視点が求められています。暴力、戦争、貧困と開発、公害、化学物質、資源など、国境を越えた諸問題を、安全保障の文脈で学びます。

●安全の基礎条件（生活世界の安全保障７～10）

人間の生活を守る基礎的な条件は、そもそも何なのでしょうか。人間が存在する物質世界の性質、生命体としての人間、健康維持、生活環境といった問題点から、危険と安全を考察します。また、社会の中で脅威を受けやすい存在である弱者に注目し、人間生活の安全を再考します。

●NPO団体での体験就業学習（生活世界の安全保障23実習）

系列３　生活世界の安全保障	
（講義）	（単位）
生活世界の安全保障１　生活世界と法	2
生活世界の安全保障２　情報社会の安全保障	2
生活世界の安全保障３　リスクの社会史	2
生活世界の安全保障４　平和と暴力	2
生活世界の安全保障５　教育と社会	2
生活世界の安全保障７　現代物質文明の履歴	2
生活世界の安全保障８　ゲノム時代の健康管理	2
生活世界の安全保障９　水の安全保障	2
生活世界の安全保障10　社会的弱者の存在論	2
（演習・実習）	（単位）
生活世界の安全保障23　ＮＰＯインターンシップ（実習）	2
生活世界の安全保障26　トランス・サイエンス論入門（演習）	2

ことばと世界

人間の取り巻く世界（人間社会や自然界）を、人間は、どのようにして記述し、どのように伝えてきたのでしょうか。自然言語、数学言語、さらには、コンピュータ言語などの仕組みと働き、および、記述された世界について、多面的に考えていきます。

“ことば”は世界とどのような関わりを持つのでしょう。“ことば”は何を表し、我々はそれによって何を表現しているのでしょう。この系列では、次のようなカテゴリーから考えていきたいと思います。

●ことばの理論（ことばと世界１～３）

言語そのものに関する議論です。言語の理論は高校で習う「文法」だけではありません。より抽象化された論理学、言語の使われ方を通して社会を考える言語社会学、乳幼児が言語を獲得していく過程を扱う発達言語学、自分の言語ではない第二言語を習得していく過程を分析する言語習得論など、いろいろなジャンルが存在します。

●ことばを読む（ことばと世界５、６、13）

文学作品を中心とした、言語による表現を解読します。しかし必ずしも対象は「文学」に限定される必要はありません。新聞記事であれマンガであれ、言葉で表現されたものは、時に著者本人も意図しないような何かを表してしまっているものだからです。高校「国語」とは違った流儀の「読み方」が展開されていきます。

●自然を記述することば（ことばと世界７、８）

科学とは、実は“ことば”で自然を記述する行為のことです。そこでは我々の日常会話とはもちろん違ったレベルの“ことば”が必要となります。数学、物理学、化学などがいったいどのような語り方を考案することによって自然に迫っていくのか、具体例を通して考えていきます。文系の人も、「自分は理系ではないから・・・」と尻込みせずに、日常的感覚が大きく更新される体験を味わってください。

●情報としてのことば（ことばと世界10～12）

情報とは現実世界をあらわす“ことば”のことです。ヒトは情報を介して世界を知る生物です。膨大な情報を処理しなくては、世界の実像を知ることはできません。その意味で、情報学は諸科学の知の基礎をなしています。また、情報化時代における生活の基礎をなす「作法」としての情報能力を養うことも、このカテゴリーの目的の一つとなっています。

系列４　ことばと世界	
（講義）	（単位）
ことばと世界１　日本語論	2
ことばと世界２　コミュニケーションと心理学	2
ことばと世界３　論理学	2
ことばと世界５　日本文学	2
ことばと世界６　海外の文学	2
ことばと世界７　数理のことば	2
ことばと世界８　自然のことば	2
ことばと世界10　グローバル化社会を生きる	2
ことばと世界11　文法と意味	2
ことばと世界12　統計と社会	2
ことばと世界13　思考力トレーニング	2
（演習・実習）	（単位）
ことばと世界27　手話学入門（演習）	2

ジェンダー

性別に関係なく充実した幸福な生活を営める社会にするために、何を考え、どう研究すればよいかを学ぶ、ジェンダー視点の導入です。それによって在学中の専門分野の研究に新しい視野を吹き込み、卒業後の進路においては新しい知の担い手として、イキイキと活躍する国際人になりましょう。

「人は女に生まれない、女になる」とシモーヌ・ド・ボーヴォワールが語ってから半世紀以上たっていますが、まだまだ世界の仕組みは「女」になったり「男」になったりするように人々を誘導しています。そう、ジェンダーは社会や文化によって形づくられた性別です。そして少子高齢化社会に突入している日本では、また人やモノやカネが国境を越えて移動しているグローバル化の時代には、ジェンダーは以前よりもっと巧妙にわたしたちの人生や生活のなかに入り込んでいます。他方で、「愛する」かたち（セクシュアリティ）の多様性や「産む」ことにまつわるテクノロジーの進展は、自由や解放とともに、反発や問題の複雑さももたらしています。今を生きるジェンダー学を学びましょう。

●政治経済と人間（ジェンダー１、２、８）

市場経済の進展がジェンダーにまつわってケアや福祉や消費や家庭経済をどのように変容させているのか、またジェンダーは政治や公共政策、社会史をどのように構築してきたのかを検討します。

●文化メディア（ジェンダー３、４）

映画や演劇、パフォーマンス、文学や美術、広告やポップカルチャー等々私たちの日常を取り巻く様々な文化表象におけるジェンダーやセクシャリティの問題を考えます。

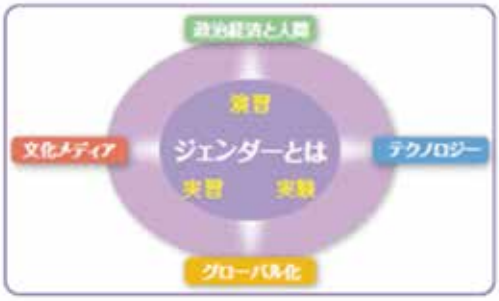
●グローバル化（ジェンダー５、６、９）

グローバル化はどのように国境を越えてジェンダーの仕組みを変えていくのでしょうか。宗教文化、ローカル性、そして開発という現象と結びつけて考えます。

●テクノロジー（ジェンダー10）

ジェンダーは社会科学や文系の領域にのみ関わるわけではありません。医療とからだ、産業と技術、情報などサイエンスやテクノロジーの領域においてジェンダーを考えます。

系列５　ジェンダー	
（講義）	（単位）
ジェンダー１　女性史・男性史とジェンダー	2
ジェンダー２　グローバル経済とジェンダー	2
ジェンダー３　文化メディアとジェンダー	2
ジェンダー４　アートとジェンダー	2
ジェンダー５　宗教文化とジェンダー	2
ジェンダー６　グローバル化/ローカル性とジェンダー	2
ジェンダー８　政治・政策とジェンダー	2
ジェンダー９　開発とジェンダー	2
ジェンダー10　テクノロジーとジェンダー	2



② 基礎講義

基礎講義は、大学での勉学や社会生活で必要となる基本を学ぶ科目です。文理融合リベラルアーツの講義科目が課題に沿った学習であるのに対して、基礎講義は学問分野の体系にそって学ぶことで基礎力を育成します。１－２年次に受講しやすいように原則として月、水、金曜の１・２限、３・４限に開講されますが、３－４年次に学ぶことで基礎力を広げることができます。

科目一覧

科　目	単位
哲学	2
法学Ⅰ（日本国憲法）	2
法学Ⅱ（法学入門）	2
政治学入門	2
ミクロ経済学入門	2
マクロ経済学入門	2

科　目	単位
基礎微分積分学	2
基礎線形代数学	2
統計学	2
総合コース	1～4
お茶の水女子大学論	2
コンピテンシー基礎論	2

科　目	単位
防災・危機管理	1
自然災害に対する防災・減災	1
学習ポートフォリオ入門	1
自然科学課題研究支援プログラム	1

③ 情　報

情報カテゴリーには、表のとおり複数の科目が開設されています。科目ごとに科目区分(必修／選択)や授業形態が異なり、定員が設けられているものがありますので、履修ガイド及びシラバスで確認してください。

「メディアリテラシ⑴⑵」では、大学における教育・研究活動で必要となる基本的な情報スキルや知識に加え、自立した人間として知識基盤社会で活躍するために最低限身に付けておきたい情報に関する知識を講義します。**「文理融合データサイエンスⅠ」**及び**「文理融合データサイエンスⅡ」**では、学部学科等によらず卒業研究・実社会及び実生活で必要とされる数理データを理解するための基礎力を身に付けます。数式だけでなくコンピュータシミュレーションを用いた講義が行われます。**「文理融合データサイエンスⅢ」**及び**「文理融合データサイエンスⅣ」**では、同Ⅰ・Ⅱを受け、卒業研究含む研究活動や実社会（企業等）における実践力の向上に向け、専門分野別の研究事例に基づくデータサイエンスの分析手法の適用の仕方などを学びます。**「情報科学⑴⑵」**では、情報に関する一般的な知識を講義します。**「情報処理学⑴⑵」**では、情報処理技術の歴史、現状及びその基盤となる学問等を概説します。

「情報処理演習⑴⑵」は、すべての学部学科において１年次第１学期、第２学期の必修科目です。この科目では、現代の情報社会における情報の意味を考察し、情報を取り扱う態度を学びます。また、情報ツールを自ら構築し、使いこなし、各自の専門領域に取り入れる手法を、初歩から学んでいきます。学科を基本としたクラス分けで開講されており、学部ごとに取り扱う題材が異なっています。必ず指定されたクラスを１年次に履修してください。複数のクラスを履修することはできません。

「プログラミング演習１」及び**「プログラミング演習２」**では、コンピュータプログラミング入門と、情報技術を使って問題を解くことを考えます。**「コンピュータ演習１」**及び**「コンピュータ演習２」**では、コンピュータにまつわるいくつかのトピックについて学びます。**「情報学演習１」**及び**「情報学演習２」**では、情報にまつわるいくつかのトピックについて学びます。これら6つの演習科目については、取り扱うテーマによっては同一科目に複数のクラスが開講されることがあり、その場合には科目ごとにどれかひとつのクラスのみ履修できます。教室設備の関係で定員を設ける場合があり、定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や用いるプログラミング言語、定員等については、シラバスを参照してください。履修順に特に制約はありません。

授業科目一覧

科　目	単位	備　考
メディアリテラシ⑴⑵	各１	
文理融合データサイエンスⅠ	2	
文理融合データサイエンスⅡ	2	
文理融合データサイエンスⅢ	2	
文理融合データサイエンスⅣ	2	
情報科学⑴⑵	各１	
情報処理学⑴⑵	各１	
情報処理演習⑴⑵	各１	文Ａ～文Ｇ、理Ａ～理Ｅ、生活Ａ～生活Ｃ、工Ａ～工Ｂ

科　目	単位	備　考
プログラミング演習１	2	定員あり
プログラミング演習２	2	定員あり
コンピュータ演習１	2	定員あり
コンピュータ演習２	2	定員あり
情報学演習１	2	定員あり
情報学演習２	2	定員あり

④ 外国語

本学で現在コア科目として開設されている外国語は以下の11言語です。

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、スペイン語、イタリア語、アジア諸語（ペルシア語・トルコ語・アラビア語）

他に文教育学部共通科目として、ギリシャ語、ラテン語があります。必修単位として必要な外国語の種類と単位数は、学部・学科別に以下のとおり定められており、各外国語の授業科目の内でも必修単位として認められる科目と認められない科目があります。必修単位に認められる科目は各外国語の授業科目表に＊印、＊＊印、＊＊＊印で示されています。（ただし、＊＊及び＊＊＊については履修条件に従うこと。）これらは学部・学科によって異なるので注意してください。また、履修に条件を設けた科目があるので、各外国語の授業科目表の履修条件欄にも注意してください。

授業科目別一覧

学部・学科等		必修となる外国語の種類及び単位数
文教育学部	人文科学科 言語文化学科	**外国語の必修単位数は 20 単位である。**英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、二つの言語についてそれぞれ８単位修得すること。残りの４単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。外国語科目の修得単位のうち、必修単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	人間社会科学科 芸術・表現行動学科	**外国語の必修単位数は 12 単位である。**英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について８単位修得すること。残りの４単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	グローバル文化学環	**外国語の必修単位数は 20 単位である。**英語・ドイツ語・フランス語・中国語を第一外国語とし、その中から一つの言語について８単位修得すること。残りの 12 単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。ただし第一外国語として選択した言語で満たすことのできる外国語の必修単位の合計は 12 単位が上限である。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
理学部	物理学科 化学科	**外国語の必修単位数は 12 単位である。**英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について８単位修得すること。残りの４単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。なお、「専門英語」の「物理英語(1)(2)」（物理学科）は、コア科目外国語（必修）英語の「中級英語 II(1)(2)」（特別クラスを除く）、「Advanced Communication Training IV (1)(2)」（理学部特別クラス）、もしくは「Advanced Communication Training VI (1)(2)」（理学部特別クラス）の内のどれか一つに充てることができる。ただし、「Advanced Communication Training IV (1)(2)」もしくは「Advanced Communication Training VI (1)(2)」に充てる場合は、１年次に「中級英語 I (1)(2)・II (1)(2)」（特別クラス）に配属されていること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目の必修単位または「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	生物学科	**外国語の必修単位数は 12 単位である。**英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について 12 単位修得すること。なお、「専門英語」の「生物学外書講読」は、コア科目外国語（必修）英語の「中級英語 II(1)(2)」（特別クラスを除く）、「Advanced Communication Training IV (1)(2)」（理学部特別クラス）、もしくは「Advanced Communication Training VI (1)(2)」（理学部特別クラス）の内のどれか一つに充てることができる。ただし、「Advanced Communication Training IV (1)(2)」もしくは「Advanced Communication Training VI (1)(2)」に充てる場合は、１年次に「中級英語 I (1)(2)・II (1)(2)」（特別クラス）に配属されていること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目の必修単位または「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	数学科 情報科学科	**外国語の必修単位数は 12 単位である。**英語を８単位修得すること。残りの４単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。なお、「専門英語」の「数学英語」（数学科）は、コア科目外国語（必修）英語のコア科目外国語（必修）英語の「中級英語 II(1)(2)」（特別クラスを除く）、「Advanced Communication Training IV (1)(2)」（理学部特別クラス）、もしくは「Advanced Communication Training VI (1)(2)」（理学部特別クラス）の内のどれか一つに充てることができる。ただし、「Advanced Communication Training IV (1)(2)」もしくは「Advanced Communication Training VI (1)(2)」に充てる場合は、１年次に「中級英語 I (1)(2)・II (1)(2)」（特別クラス）に配属されていること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目の必修単位または「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
生活科学部	食物栄養学科 人間・環境科学科 人間生活学科 心理学科	**外国語の必修単位数は 12 単位である。**英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について８単位修得すること。残りの４単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目必修単位または「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
共創工学部	人間環境工学科 文化情報工学科	**外国語の必修単位数は 12 単位である。**英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について８単位修得すること。残りの４単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目必修単位または「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。

●Ⅰ　英語

1　授業科目

科　目	単位	対象学年	内　容	履修条件
＊基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1	基礎的英語力を充実させる。reading/listening、speaking/writing の２分野を履修する。	同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修すること。
＊中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	2	中級レベルの英語力を充実させる。reading/listening、speaking/writing の２分野を履修する。	「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修すること。
＊＊英語コミュニケーションⅢ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	各1	2～4	speaking, writing を中心に中級レベルのコミュニケーション技術を修得する。	「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。
＊＊英語コミュニケーションⅤ(1)(2)・Ⅵ(1)(2)	各1	2～4	speaking, writing を中心に上級レベルのコミュニケーション技術を修得する。	「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。
＊＊英語プレゼンテーションⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	2～4	自分の考えや研究成果を発表するための英語力を養成する。	「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。
＊＊グローバル・イングリッシュⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	2～4	世界の多様な英語に触れ、コミュニケーション技術を修得する。	「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。
＊＊ Advanced Communication Training Ⅰ(1)(2)～Ⅵ(1)(2)	各1	1～4	海外留学・海外業務を想定した大学中・上級レベルのコミュニケーション技術を修得する。	なし
英語コミュニケーションⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～2	speaking と writing を中心に基礎的英語力を充実させる。	なし
上級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	3～4	reading、writing を中心として、高度な英語力を充実させる。授業は原則として英語で行われる。	英語８単位以上を＊のついた基本科目または所属学科指定の振替科目で修得していること。
上級英語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	各1	3～4	listening、speaking を中心として、高度な英語力を充実させる。授業は原則として英語で行われる。	
ビジネス英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	2～4	ビジネスに用いられる英語力を養成する。	英語４単位以上を＊のついた基本科目で修得していること。
時事英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	2～4	時事英語の知識に基づいた英語力を養成する。	

注）①　＊：コア外国語の必修単位を英語で８単位とする場合に必修単位に充てることのできる基本科目です。
　　＊＊：８単位を超えて英語をコア外国語の必修として履修する場合、必修に充てることのできる科目です。

②　上級英語の単位は、特別措置等による認定がある場合に限り、必修単位に充てることができます。詳細はP. 39「4 履修に関する特別措置」をご確認ください。またそれ以外の＊および＊＊のついていない科目の単位は、必修単位に充てることができません。

③　コア外国語の必修単位に充てることができない科目の単位は、学部・学科により、コア科目の必修科目または自由に選択して履修する科目の単位に充てることができます。

④　対象学年は、必修単位を満たす外国語として英語を履修する場合の指定です。ただし、英語を必修外国語としない場合でも、履修条件を満たすように履修してください。

⑤　「４　履修に関する特別措置」【P. 39参照】に該当し、上位学年の科目の履修を希望する学生は、上の表のすべての科目について、その「履修条件」が適用されません。履修科目の選択について質問がある場合は、英文研究室（文教育学部1号館419室）に相談してください。

２　クラス編成

科　目	対象学年	編成のされ方	備　考
基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	1	習熟度別クラス編成を行い、指定されたクラスで履修する。	
中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	2	習熟度別クラス編成を行い、指定されたクラスで履修する。	
英語コミュニケーションⅢ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	2～4		卒業年度学生に優先権がある。
英語コミュニケーションⅤ(1)(2)・Ⅵ(1)(2)	2～4		卒業年度学生に優先権がある。
英語プレゼンテーションⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	2～4	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、抽選とする。	卒業年度学生に優先権がある。
グローバル・イングリッシュⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	2～4		クラス定員は特に設けない
Advanced Communication Training Ⅰ(1)(2)～Ⅵ(1)(2)	1～4	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、抽選とする。	Advanced Communication Training Ⅲ(1)(2)～Ⅵ(1)(2)のうち、文特、理特、生特の記載のあるクラスは、当校学部所属２年生で「中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」を履修済みまたは特別措置が認められた者の履修を優先する。
英語コミュニケーションⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	1～2	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、抽選とする。	
上級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	3～4	同上	特別措置により必修単位を満たす科目として履修する学生に優先権がある。
上級英語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	3～4	同上	特別措置により必修単位を満たす科目として履修する学生に優先権がある。
ビジネス英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	2～4	同上	
時事英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	2～4	同上	

注）①　クラス定員は、原則として30名です。

②　再履修の必要がある学生は、「５　再履修に関する措置」【P.39参照】に従って履修してください。

③　英語を必修外国語としない場合で２年次以降に「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」の履修を希望する場合は、再履修の場合（前項②）と同様の手続きで履修してください。

④　言語文化学科英語圏言語文化主プログラムの学生が「上級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「上級英語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」の履修を希望する場合、各クラスの定員に余裕がある場合のみ受講が可能となります。

⑤　聴講については、クラス定員に余裕がある場合にのみ許可します。

３　Advanced Communication Training（ACT）プログラム

学問やビジネスの急速なグローバル化にともない、卒業後大学院に進学するにせよ、一般企業に就職するにせよ、みなさんには英語の運用能力、特に話したり書いたりすることで自分の考えを発信する能力が強く求められています。特に、在学中に留学を目指しているみなさんは、早期からこのような実践的英語運用力を高めておく必要があります。ACTプログラムは、「Advanced Communication Training Ⅰ(1)(2)～Ⅵ(1)(2)」を核とし、さまざまなレベルの実践的な英語科目をプログラムとして提供することで、このようなグローバル化の必要性に応えるものです。

・「Advanced Communication TrainingⅠ(1)(2)」、「同Ⅱ(1)(2)」は、特に留学を目指している学生を想定して開講される科目で、例えば、留学における研究計画や研究報告を担当教員の指導の下に英語でまとめ、英語で発表します。

・「Advanced Communication TrainingⅢ(1)(2)」、「同Ⅳ(1)(2)」、「同Ⅴ(1)(2)」、「同Ⅵ(1)(2)」は、主に大学院への進学を目指し

ている学生、また国際機関や外資系企業への就職を目指している学生を想定して開講される科目で、担当教員と相談のうえ特定の研究テーマを決め、それについて英語で学び、研究成果を英語で発表します。

ACTプログラムは、これらを含む下記の表の中の授業科目から合計12単位を修得することにより、プログラムの修了証を取得できるとともに、成績証明書にAdvanced Communication Training Programの修了を明記できる制度です。

各授業科目は標準的な履修年次と履修条件を定めていますが、授業についていく英語力さえあれば1年次から履修できる科目もありますので、ぜひ積極的にこのプログラムに参加し、4年間を通じて実践的な英語力を高めてください。

ACTプログラムへの参加希望者は、履修登録期間中にACTプログラム科目の履修登録を行ってください。プログラム修了証の発行および成績証明証への記載を希望する学生は、各年度の所定の期間に学務課でプログラム修了証明証発行申請を行ってください。

Advanced Communication Training Program

	単位	授業科目	標準履修年次	履修条件	
CB	2（選択必修）	Advanced Communication Training Ⅰ(1)(2)(ESA)	1～4	授業初回に履修希望者が30名を越えた場合、抽選を行う。ただし学部ごとに開講されるクラスについては、当該学部の学生に優先権がある。	Ⅰ～Ⅵから4単位を必ず修得すること
	2（選択必修）	Advanced Communication Training Ⅱ(1)(2)(ESA)			
	2（選択必修）	Advanced Communication Training Ⅲ(1)(2)			
	2（選択必修）	Advanced Communication Training Ⅳ(1)(2)			
	2（選択必修）	Advanced Communication Training Ⅴ(1)(2)			
	2（選択必修）	Advanced Communication Training Ⅵ(1)(2)			
	2（選択）	Summer Program in English Ⅰ		なし（定員20名）	
	2（選択）	Summer Program in English Ⅱ			
	2（選択）	Summer Program in English Ⅲ			
	2（選択）	Summer Program in English Ⅳ			
	2（選択）	Summer Program in English Ⅴ			
	2（選択）	Summer Program in English Ⅵ			
SB	各1（選択）	上級英語Ⅰ（R/W）(1)(2)	3･4	コア英語8単位以上を修得していること（コア外国語（英語）の「履修条件」を参照）	
	各1（選択）	上級英語Ⅱ（R/W）(1)(2)			
	各1（選択）	上級英語Ⅲ（L/S）(1)(2)			
	各1（選択）	上級英語Ⅳ（L/S）(1)(2)			
PT	2（選択）	Academic Writing A（文系）/B（理系）	3･4	「上級英語」に準ずる	
	2（選択）	Academic Presentation A（文系）/B（理系）			
	2（選択）	TOEFL 対策ゼミ R/L ＊	1～4	授業初回に履修希望者が30名を越えた場合、抽選を行う。	
	2（選択）	TOEFL 対策ゼミ S/W ＊			
	2（選択）	IELTS 対策ゼミ R/L ＊			
	2（選択）	IELTS 対策ゼミ S/W ＊			
	各1（選択）	時事英語Ⅰ(1)(2)	2～4	コア英語4単位以上を修得していること（コア外国語（英語）の「履修条件」を参照）	
	各1（選択）	時事英語Ⅱ(1)(2)			
	各1（選択）	ビジネス英語Ⅰ(1)(2)			
	各1（選択）	ビジネス英語Ⅱ(1)(2)			
	各1（選択）	英語プレゼンテーションⅠ(1)(2)			
	各1（選択）	英語プレゼンテーションⅡ(1)(2)			

以上から12単位修得で修了証発行

ESA = English for Study Abroad, CB = Content-Based, SB = Skill-Based, PT = Practical Training

＊卒業単位に含めることができない

4　履修に関する特別措置

1）入学以前に『実用英語技能検定』（公益財団法人日本英語検定協会主催）１級又は準１級、『TOEIC』（一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会主催）680点以上のスコアもしくは『TOEFL』（Educational Testing Service（ETS）主催）において72（iBT）点以上、もしくは『IELTS』において６以上、もしくは『GTEC』において1190点以上のスコアを持っている学生に関する措置

（「Ⅱ－４　単位制」⑵【P.57～60参照】）

a　入学以前に実用英語技能検定準１級、TOEIC680点以上815点未満のスコアもしくはTOEFL72（iBT）点以上92（iBT）点未満、もしくはIELTSで６以上７未満、もしくはGTECで1190点以上1350点未満のスコアを持っている学生

「基礎英語Ⅰ⑴⑵・Ⅱ⑴⑵」に相当する４単位を認定します。残りの必修単位は「中級英語Ⅰ⑴⑵・Ⅱ⑴⑵」で充足し、８単位を超えて必修単位として履修する場合は、「上級英語Ⅰ⑴⑵・Ⅱ⑴⑵」、「上級英語Ⅲ⑴⑵・Ⅳ⑴⑵」、「英語コミュニケーションⅢ⑴⑵・Ⅳ⑴⑵」、「英語コミュニケーションⅤ⑴⑵・Ⅵ⑴⑵」、「英語プレゼンテーションⅠ⑴⑵・Ⅱ⑴⑵」、「グローバル・イングリッシュⅠ⑴⑵・Ⅱ⑴⑵」「Advanced Communication Training Ⅰ⑴⑵～Ⅵ⑴⑵」で充足させることができます。

b　入学以前に実用英語技能検定１級、TOEIC815点以上のスコア、TOEFL92（iBT）点以上もしくはIELTSで７以上、もしくはGTECで1350点以上のスコアを持っている学生

「基礎英語Ⅰ⑴⑵・Ⅱ⑴⑵」、「中級英語Ⅰ⑴⑵・Ⅱ⑴⑵」及び「グローバル・イングリッシュⅠ⑴⑵・Ⅱ⑴⑵」に相当する12単位を認定します。

※上記の条件を充たし、単位認定を希望する者は、所定の期間に学務課で単位認定の申請をすること。

2）上記１）の実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL、IELTSもしくはGTECによる単位認定資格を持たないが、入学時の成績が基準に達した学生に関する措置（特別措置の基準は所属学部の当該学年全受験者のスコアとの相対評価で定める）

１年次から２年次履修対象科目を履修し、「基礎英語Ⅰ⑴⑵・Ⅱ⑴⑵」の代わりに「中級英語Ⅰ⑴⑵・Ⅱ⑴⑵」を１年次対象の必修単位として履修することを認めます。また残りの英語の必修単位は「英語コミュニケーションⅢ⑴⑵・Ⅳ⑴⑵」、「英語コミュニケーションⅤ⑴⑵・Ⅵ⑴⑵」、「英語プレゼンテーションⅠ⑴⑵・Ⅱ⑴⑵」、「上級英語Ⅰ⑴⑵・Ⅱ⑴⑵」「上級英語Ⅲ⑴⑵・Ⅳ⑴⑵」、「グローバル・イングリッシュⅠ⑴⑵・Ⅱ⑴⑵」「Advanced Communication Training Ⅰ⑴⑵～Ⅵ⑴⑵」で充足させることができます。

3）　１年次終了まで（「基礎英語Ⅰ⑴⑵・Ⅱ⑴⑵」の単位を修得するまで）に実用英語技能検定１級、TOEFL580（ITP）／92（iBT）点以上、TOEIC815点以上もしくはIELTSで７以上のスコアを得た学生もしくは１年次の成績が基準に達した学生に関する措置（特別措置の基準は所属学部の当該学年全履修者の成績との相対評価で定める）

次年度の履修手続きの際、「上級英語Ⅰ⑴⑵・Ⅱ⑴⑵」及び「上級英語Ⅲ⑴⑵・Ⅳ⑴⑵」の履修を認めます。

5　再履修に関する措置

再履修が必要となった場合は、学務課より掲示される方法に従い、再履修の手続きをしてください。自分が所属する学部の指定クラスで履修してください。この場合、英語を必修外国語としている学生の履修が優先されます。

●Ⅱ　ドイツ語・フランス語・中国語

［ドイツ語］

1　授業科目

科　目	単位	対象学年	内　容	履　修　条　件
＊　基礎ドイツ語 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	各２	1	１年間をかけてドイツ語の文法を詳しく学ぶ。ドイツ語の文法体系はかなりしっかりしているので、１年間の学習を通じて高度なドイツ語の文章の読解が可能になる。	同一年度でⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを連続して履修すること。
＊＊　基礎ドイツ語（応用） Ⅰ⑴⑵・Ⅱ⑴⑵	各１	1	読み・書き・話し・聞くという総合的な訓練を通じて実践的な語学力を養う。	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」あるいは「ドイツ語初歩Ⅰ・Ⅱ」を同時に履修するか、またはこれらを既に履修していることが望ましい。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
＊＊　発展ドイツ語 Ⅰ⑴⑵・Ⅱ⑴⑵	各１	2	さまざまなジャンルの中級程度のドイツ語と取り組みながら、ドイツ語の力を伸ばす。	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していること。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。

科　目	単位	対象学年	内　容	履　修　条　件
＊＊発展ドイツ語 Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	各1	2	さまざまなジャンルの中級程度のドイツ語と取り組みながら、ドイツ語の力を伸ばす。	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していること。同一年度でⅢ・Ⅳを連続して履修することが望ましい。
＊＊＊基礎ドイツ語会話 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	基礎的な会話演習。	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」あるいは「ドイツ語初歩Ⅰ・Ⅱ」を既に履修していることが望ましい（ただしこれらを同時に履修しつつ受講することも妨げない）。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
＊＊＊ドイツ語初歩 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	ドイツ語文法の概略をつかみ、簡単な文章が読めるようにする。	同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。

注）①　＊　全学部の学生がコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる基本科目です。
　　＊＊　８単位を超えてドイツ語をコア科目（外国語）の必修として履修する場合、必修単位に充てることのできる科目です。
　　＊＊＊　ドイツ語を８単位未満履修する場合にのみコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる科目です。
　②　対象学年は、必修単位を満たす外国語としてドイツ語を履修する場合の目安です。
　③　「４　履修に関する特別措置」に該当する学生は、言語文化学科（仏語圏コース室ドイツ語担当）の判断で指定されたクラスを履修してください。

２　クラス編成

１クラス50名以内とします。指定されたクラスで履修してください。
１クラスの履修希望者が50名を超えた時は、調整を行います。

３　より高度な授業科目

発展ドイツ語よりも高度な内容の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科の専門教育科目を履修してください。
開講している科目には、「ドイツ語講読演習Ⅰ・Ⅱ」、「独文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ」、「独文学演習Ⅰ・Ⅱ」があります。
なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

４　履修に関する特別措置

１）入学時に『ドイツ語技能検定試験』（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）３級以上に合格している学生、『Goethe-Zertifikat』（Goethe Institut主催）A1以上に合格している学生、『ÖSD』（ÖSD主催）A1以上に合格している学生、『TestDaF』（TestDaF Institut主催）TDN3以上に合格している学生に関する措置（「Ⅱ－４　単位制」(2)【P.52～54参照】）

A　入学時に『ドイツ語技能検定試験』（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）３級以上に合格している学生に関する措置

a　３級合格者：「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する８単位を認定します。

b　２級以上合格者：「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎ドイツ語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。

B　入学時に『Goethe-Zertifikat』（Goethe Institut主催）A1以上に合格している学生及び『ÖSD』（ÖSD主催）A1以上に合格している学生に関する措置

a　A1合格者：「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する８単位を認定する。

b　A2以上合格者：「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎ドイツ語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12 単位を認定する。

C　入学時に『TestDaF』（TestDaF Institut主催）TDN3以上に合格している学生に関する措置

TDN3以上合格者：「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎ドイツ語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定する。

２）既にドイツ語を学んでおり、相当の実力があると認められる学生に関しては＊＊科目の履修によって、必修単位８単位分に充てることを認める場合があります。

［フランス語］

1　授業科目

科　目	単位	対象学年	内　容	履　修　条　件
＊　基礎フランス語 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	各２	1	フランス語の文法の基礎を修得し、簡単な会話や文章の読解ができるようになる。	同一年度でⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを連続して履修すること。
＊＊　基礎フランス語(応用) Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各１	1	読み・書き・話し・聞くという様々な基本的な訓練を通じて実践的な語学力を養う。	「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を同時に履修するか、またはこれらを既に履修していること。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
＊＊　発展フランス語 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各１	2	基礎を固めつつ、テクストの読解や様々な練習を通じて、フランス語学力の向上を図る。	「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していること。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
＊＊　発展フランス語 Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	各１	2		「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していること。同一年度でⅢ・Ⅳを連続して履修することが望ましい。
＊＊＊基礎フランス語会話 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各１	１～４	外国人講師によるフランス語初歩の会話演習。	同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
＊＊＊フランス語初歩 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各１	１～４	フランス語文法の概略をつかむ。	同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。

注）①　＊　全学部の学生がコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる基本科目です。

＊＊　８単位を超えてフランス語をコア科目（外国語）の必修として履修する場合、必修単位に充てることのできる科目です。

＊＊＊　フランス語を８単位未満履修する場合にのみコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる科目です。

②　対象学年は、必修単位を満たす外国語としてフランス語を履修する場合の目安です。

③「４　履修に関する特別措置」に該当する学生は、言語文化学科（仏語圏コース室）の判断で指定されたクラスを履修してください。

2　クラス編成

１クラス50名以内とします。指定されたクラスで履修してください。

１クラスの履修希望者が50名を超えた時は、調整を行います。

3　より高度な授業科目

発展フランス語よりも高度な内容の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科の専門教育科目を履修してください。なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

4　履修に関する特別措置

1）入学時に『実用フランス語技能検定試験』（公益財団法人フランス語教育振興協会主催）４級以上に合格している学生及び『DELF』（France Éducation International主催）A1以上に合格している学生に関する措置（「Ⅱ－４　単位制」(2)【P.52～54参照】）

A　入学時に『実用フランス語技能検定試験』（公益財団法人フランス語教育振興協会主催）４級以上に合格している学生に関する措置

a　４級合格者：「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する８単位を認定します。

b　３級以上合格者：「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎フランス語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展フランス語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展フランス語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。

B　入学時に『DELF』（France Éducation International主催）A1以上に合格している学生に関する措置

a　A1合格者：「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する８単位を認定します。

b　A2以上合格者：「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎フランス語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展フランス語Ⅰ

(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展フランス語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。

2） 既にフランス語を学んでおり、相当の実力があると認められる学生に関しては＊＊科目の履修によって、必修単位8単位分に充てることを認める場合があります。

[中国語]

1　授業科目

科　目	単位	対象学年	内　容	履　修　条　件
＊　基礎中国語 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	各2	1	中国語の文法の基礎を修得し、簡単な会話や文章の読解ができるようにする。	同一年度でⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを連続して履修すること。
＊＊　基礎中国語（応用） Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1	簡単な文章の読解を通じて、中国語の基礎を修得する。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を同時に履修するか、またはこれらを既に履修していること。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
＊＊　発展中国語 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	2	標準的な中国語の文章の読解を行う。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していること。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
＊＊　発展中国語 Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	各1	2	基礎的学力を固めつつ、標準的文章の読解、及び聴解能力を高める。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していること。同一年度でⅢ・Ⅳを連続して履修することが望ましい。
＊＊＊基礎中国語会話 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	2～4	外国人講師による簡単な中国語会話演習。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修済みであることが望ましい。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
＊＊＊中国語初歩 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	中国語の入門を図る。併せて発音や聞き取りの練習も行う。	同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
中国語 プレゼンテーションⅠ	2	1～4	中国語による発信力を育成する。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「発展中国語Ⅰ・Ⅱ」または「同Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していること、または中国語学習歴が2年以上であることが望ましい。
中国語 プレゼンテーションⅡ	2	1～4	中国語による発信力を育成する。	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「発展中国語Ⅰ・Ⅱ」または「同Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していること、または中国語学習歴が2年以上であることが望ましい。

注）① ＊　全学部の学生がコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる基本科目です。
＊＊　8単位を超えて中国語をコア科目（外国語）の必修として履修する場合、必修単位に充てることのできる科目です。
＊＊＊　中国語を8単位未満履修する場合にのみコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる科目です。
② 対象学年は、必修単位を満たす外国語として中国語を履修する場合の目安です。
③ 「4　履修に関する特別措置」に該当する学生は、言語文化学科（中文コース室）の判断で指定されたクラスを履修してください。

2　クラス編成

1クラス50名以内とします。指定されたクラスで履修してください。
1クラスの履修希望者が50名を超えた時は、調整を行います。

3　より高度な授業科目

発展中国語よりも高度な内容の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科中国語圏言語文化コースの専門教育科目を履修してください。開講している科目には、「中国語ヒアリング基礎」、「中国語ヒアリング演習」、「中国語講読」、「中国語会話演習」、「中国語コミュニケーション・スキル」、「中国語作文基礎演習」、「中国語作文応用演習」があります。なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

4　履修に関する特別措置

1）入学時に『中国語検定』（一般財団法人日本中国語検定協会主催）4級以上に合格している学生、『中国語コミュニケーション能力検定』（中国語コミュニケーション協会主催）において250点以上のスコアをもっている学生及び『漢語水平考試』（中国国家HSK委員会主催）の2級以上に合格している学生に関する措置（「Ⅱ－4　単位制」(2)【P.57～60参照】）

A　入学時に『中国語検定』（一般財団法人日本中国語検定協会主催）４級以上に合格している学生に関する措置

a　４級合格者：「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する８単位を認定します。

b　３級以上合格者：「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。

B　入学時に『中国語コミュニケーション能力検定』（中国語コミュニケーション協会主催）において250点以上のスコアをもっている学生に関する措置

250点以上400点未満：「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する８単位を認定します。

400点以上：「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。

C　入学時に『漢語水平考試』（中国国家HSK委員会主催）の２級以上に合格している学生に関する措置

a　２級合格者：「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する８単位を認定します。

b　３級以上合格者：「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。

２）既に中国語を学んでおり、相当の実力があると認められる学生に関しては、＊＊科目以外の履修によって、必修単位８単位分に充てることを認める場合があります。

●Ⅲ　ロシア語・朝鮮語

ロシア語と朝鮮語は、初歩クラスと会話クラスが開講されます。

[ロシア語]

1　授業科目

科　目	単位	対象学年	内　容	履　修　条　件
＊ロシア語初歩 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各１	１～４	ロシア語の基礎を学ぶ。	Ⅰ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
＊ロシア語会話 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各１	１～４	簡単なロシア語会話の練習。	

[朝鮮語]

1　授業科目

科　目	単　位	対象学年	内　容	履　修　条　件
＊朝鮮語初歩 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各１	１～４	朝鮮語の基礎を学ぶ。	Ⅰ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
＊朝鮮語会話 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各１	１～４	簡単な朝鮮語会話の練習。	「朝鮮語初歩Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。Ⅰ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。

●Ⅳ　スペイン語・イタリア語・アジア諸語（ペルシア語・トルコ語・アラビア語）

それぞれ現代スペイン語・現代イタリア語・現代アジア諸語（ペルシア語・トルコ語・アラビア語）の初級コースが開講されます。

科　目	単位	対象学年	内　容	履　修　条　件
＊現代スペイン語Ⅰ・Ⅱ	各２	１～４	スペイン語の基礎を学ぶ。	Ⅰ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
＊スペイン語会話 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各１	１～４	簡単なスペイン語会話の練習。	
＊現代イタリア語Ⅰ・Ⅱ	各２	１～４	イタリア語の基礎を学ぶ。	Ⅰ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
＊現代アジア諸語Ⅰ～Ⅳ （ペルシア語･トルコ語･アラビア語）	２	１～４	ペルシア語・トルコ語・アラビア語の基礎を学ぶ。	各クラスの言語についてはシラバスで確認すること。

⑤ スポーツ健康

１　スポーツ健康の履修

全学部とも「スポーツ健康実習」２単位が必修です。

２　授業科目

科目／学部	必修科目		自由選択科目					
	スポーツ健康実習		スポーツ科学概論		健康科学概論		生涯スポーツ	
	単位数	履修年次	単位数	履修年次	単位数	履修年次	単位数	履修年次
全学部	２単位	１年次	２単位	１～４年次	２単位	１～４年次	0.5～３単位	１～４年次

注）① 「生涯スポーツ」の履修単位を「スポーツ健康実習」の単位に替えることは、原則的にはできません。

② 「スポーツ科学概論」、「健康科学概論」、「生涯スポーツ」の単位は、文教育学部の学生は自由選択科目として、理学部、生活科学部、共創工学部の学生はコア科目（「スポーツ健康」の選択科目）として卒業単位の中に含めることができます。

１）スポーツ健康実習

運動やスポーツを通じて健康や体力の維持増進を図り、あわせて自己の身体への理解と関心を深めることを目的とします。前学期は主に体力の維持増進を目的として「共通フィットネス」を履修します。後学期は開講される種目（テニス、バドミントン、ダンス、多種目など）の中から履修する種目を選択します。前・後学期それぞれ２回ずつの講義が含まれます。

自己の体力水準を正しく知ってもらうために、４月７月および12月に体力診断テストを行います。

なお、傷害あるいは慢性疾患等で運動することができない場合は、軽運動クラスを選択することができます。

２）　スポーツ科学概論

人はなぜスポーツをするのか、スポーツは人にどのような影響を与えるのか、というテーマについて、人文・社会科学的視点からと生理学的視点から、それぞれ講義します。

３）健康科学概論

青年期、成人期を女性として健康に生きるための基本的な知識、考え方を学び、同時に健康をめぐる諸問題に対する関心を深めることを目的とします。

４）生涯スポーツ

生涯にわたって自らの生活の中に運動やスポーツを取り入れ実践していくことができる基礎的能力を高めることを目的とします。開講する種目は学生からの要望の高い種目が用意されます。１・２学期開講分は１学期の第１週目、３・４学期開講分は３学期の第１週目にガイダンスと受講の受付をします。

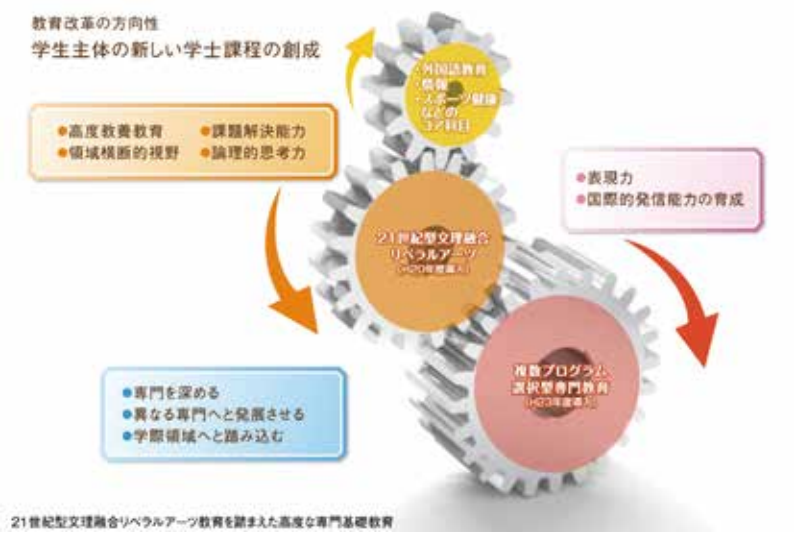
(2) 専門教育科目

① 「複数プログラム選択履修制度」(主・強化・副・学際プログラム)

複数プログラム選択履修制度とは、「主プログラム」「強化プログラム」「副プログラム」「学際プログラム」の４つから構成されており、学生が自分の目標にあわせて、これらのプログラムを選択的に組み合わせることにより、

－深く専門的な知識を学びたい
－将来の進路を考えて、幅広くさまざまな分野の知識や技能を身につけたい
－分野を横断した最先端の学問領域を学びたい
－国際理解を深めたい

など、学生一人ひとりの意欲やニーズに柔軟に対応する教育課程です。

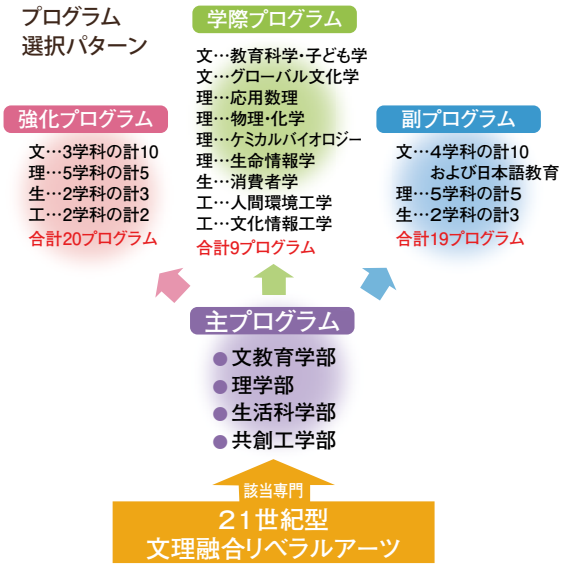


「主プログラム」とは
　自分の所属する学科から提供される知識や技能の基礎を学ぶプログラムをいいます。

「強化プログラム」とは
　専攻した分野をさらに深く、または広く学ぶためのプログラムをいいます。

「副プログラム」とは
　自分の専攻した分野と異なる分野を学ぶプログラムをいいます。

「学際プログラム」とは
　さまざまな分野を融合する最先端の知識や技能を学ぶ学際型プログラムをいいます。



◆「複数プログラム選択履修制度」の履修方法

第１のプログラム（必修）

主プログラム	
趣旨	選択条件
各専門領域の基礎的な知識や技能を、一貫的、調和的に修得するためのプログラム	所属学科の開設するプログラムから選択すること

開設プログラム

▼文教育学部 ◎人文科学科 哲学・倫理学・美術史、 比較歴史学、地理環境学 ◎言語文化学科 日本語・日本文学、 中国語圏言語文化、 英語圏言語文化、 仏語圏言語文化 ◎人間社会科学科 教育科学、社会学、 子ども学 ◎グローバル文化学環 グローバル文化学（※１）	▼理学部 ◎数学科 数学 ◎物理学科 物理学 ◎化学科 化学 ◎生物学科 生物学 ◎情報科学科 情報科学	▼生活科学部 ◎人間生活学科 生活社会科学、 生活文化学 ◎心理学科 心理学	▼共創工学部 ◎人間環境工学科 人間環境工学 ◎文化情報工学科 文化情報工学

※１：グローバル文化学を主プログラムとする履修者は、必修プログラムとして、グローバル文化学主プログラムと、所属学科のいずれかのコースの副プログラム又は教育科学・子ども学学際プログラムを履修します。

第２のプログラム（選択必修）

強化プログラム

趣旨

各専門領域のより高度な科目群からなり、専門領域に特化した深い専門性を培うためのプログラム

選択条件

同一名の主プログラムを履修していること

開設プログラム

主プログラムと同じ（グローバル文化学を除く）

副プログラム

趣旨

学生の多様な能力・適性及び学習意欲に応え、専門とは異なる分野の幅広い学修機会を提供するためのプログラム

選択条件

以下の表の所属学科が指定する副プログラム（○印が付いたもの）から一つを選択すること

			哲学・倫理学・美術史	比較歴史学	地理環境学	日本語・日本文学	中国語圏言語文化	英語圏言語文化	仏語圏言語文化	日本語教育	社会学	舞踊教育学	音楽表現	数学	物理学	化学	生物学	情報科学	生活社会科学	生活文化学	心理学
文教育学部	人文科学科	哲学	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	○	○
		歴史	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	○	○
		地理	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	○	－
		グロ文	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	言語文化学科	日文	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	○	○
		中文	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	○	○
		英文	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	○	○
		仏文	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	○	○
		グロ文	－	－	－	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	人間社会科学科	教育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－
		社会	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
		子ども	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	○	○
		グロ文	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
理学部		数学科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－	－
		物理学科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	○	○	○	－	－	－
		化学科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○	－	○	○	－	－	－
		生物学科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○	○	－	○	－	－	－
		情報科学科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○	－	－	－	－	－	－
生活科学部	人間生活学科	生活社会科学	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○
		生活文化学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	○	－	○
	心理学科	心理学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	－
共創工学部		人間環境工学科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－
		文化情報工学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	○	－	○	－

開設プログラム

▼文教育学部 哲学・倫理学・美術史、比較歴史学、地理環境学、 日本語・日本文学、中国語圏言語文化、 英語圏言語文化、 仏語圏言語文化、日本語教育、社会学、 舞踊教育学、音楽表現	▼理学部 数学、物理学、化学、生物学、情報科学 ▼生活科学部 生活社会科学、生活文化学、心理学

学際プログラム

趣旨

新たな領域融合型ないし学際型の専門領域に即応し、先端研究分野等で要請される新しいタイプの専門人材養成に対応するプログラム

選択条件

以下の表の所属学科が指定する学際プログラム（○印が付いたもの）から一つを選択すること

			教育科学・子ども学	グローバル文化学	応用数理	物理・化学	ケミカルバイオロジー	生命情報学	消費者学	人間環境工学	文化情報工学
文教育学部	人文科学科	哲学	○	○	－	○	○	－	○	○	○
		歴史	○	○	－	－	－	－	○	○	○
		地理	○	○	－	－	－	－	－	○	○
		グロ文	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	言語文化学科	日文	○	○	－	－	－	－	－	－	○
		中文	○	○	－	－	－	－	－	－	○
		英文	○	○	－	－	－	－	○	－	○
		仏文	○	○	－	－	－	－	○	－	○
		グロ文	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	人間社会科学科	教育	○	○	－	－	－	－	－	－	－
		社会	○	○	－	○	○	－	○	○	○
		子ども	○	○	－	－	－	－	○	○	○
		グロ文	○	－	－	－	－	－	－	－	－
理学部		数学科	－	－	○	－	－	○	－	－	－
		物理学科	－	－	○	○	○	○	－	○	－
		化学科	－	－	○	○	○	○	－	－	－
		生物学科	－	－	○	○	○	○	－	－	－
		情報科学科	－	－	○	－	－	○	－	－	－
生活科学部	人間生活学科	生活社会科学	－	○	－	－	－	－	○	－	○
		生活文化学	○	○	－	－	－	－	○	○	○
	心理学科	心理学	○	○	－	○	○	－	○	○	○
共創工学部		人間環境工学科	－	－	－	－	－	○	○	－	○
		文化情報工学科	○	○	－	－	－	－	－	○	－

開設プログラム

▼文教育学部 ◎人間社会科学科 教育科学・子ども学 ◎グローバル文化学環 グローバル文化学	▼理学部 ◎数学科、物理学科、情報科学科 応用数理 ◎物理学科、化学科 物理・化学 ◎化学科、生物学科 ケミカルバイオロジー ◎生物学科、化学科、情報科学科 生命情報学	▼生活科学部 ◎人間生活学科 消費者学 ▼共創工学部 ◎人間環境工学科 人間環境工学 ◎文化情報工学科 文化情報工学

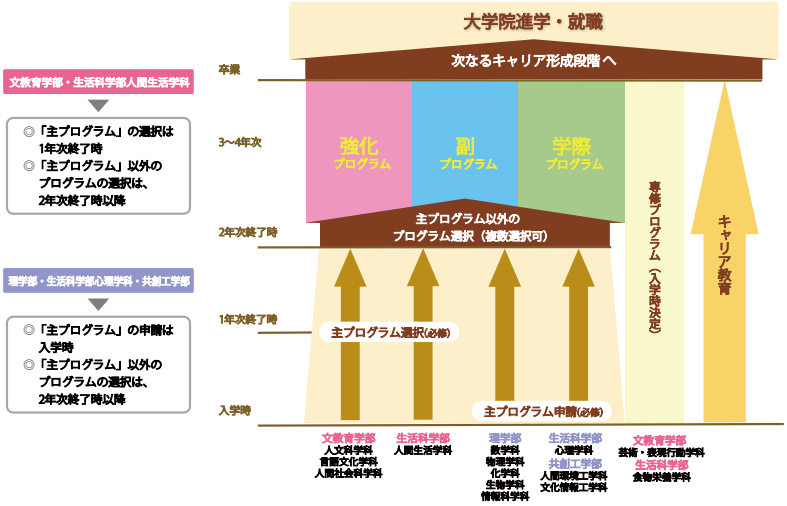
※主プログラムと第２のプログラムに共通して含まれている科目については
どちらか１つのプログラムにのみ換算されます。（ダブルカウントは不可）

第３のプログラム（自由選択）

副プログラム
選択条件
他学部のプログラムも自由に選択できる
開設プログラム
「第２のプログラム」を参照
学際プログラム
選択条件
他学部のプログラムも自由に選択できる。ただし、理学部提供のプログラムを、文教育学部及び生活科学部人間生活学科所属の学生が履修することはできない。また人間環境工学学際プログラムを文教育学部言語文化学科所属（グローバル文化学環を除く）の学生が履修することはできない。
開設プログラム
「第２のプログラム」を参照

※２：文教育学部芸術・表現行動学科および生活科学部食物栄養学科は、４年一貫の専修プログラムに従って学修します。なお、芸術・表現行動学科および食物栄養学科で学んでいても、ニーズに応じて第３のプログラムを選択することができます。

◆プログラム選択時期



【主プログラム】

理学部と生活科学部心理学科及び共創工学部の学生は、入学時点で決定しています。文教育学部と生活科学部人間生活学科の学生は、１年次の10月頃に予備調査、１月頃に本申請をWebで行います。本申請の結果、申請者数（第一希望者数）が受け入れ上限数を上回っている場合、当該主プログラム提供学科（コース・講座）における選考により決定します。

【第２プログラム】

２年次の10月頃に予備調査、１月頃に本申請をWebで行います。

【第３プログラム】

２年次の１月頃にWebで申請を行います。

２年終了時以降も、学務課にて随時変更・追加の受付が可能です。

◆入学から卒業まで

専門教育（専攻）科目の履修方法については次の規則や冊子を参照してください。

文教育学部　　文教育学部履修規程（P.240）及び「文教育学部授業科目履修案内」

理　学　部　　理学部履修規程（P.262）及び「理学部授業科目履修案内」

生活科学部　　生活科学部履修規程（P.274）及び「生活科学部履修の手引き」

共創工学部　　共創工学部履修規程（P.284）及び「共創工学部履修案内」

主プログラムまたは専修プログラムを選択した学生が所属し、専門教育を学んでいく足場となる教育組織が学科（またはコース・講座）です。

複数プログラム選択履修制度全般について不明な点や時間割についての相談は、教学IR・教育開発・学修支援センター（学生センター棟１階）に問い合わせてください。

教学IR・教育開発・学修支援センター［学修相談部門］：https://www.ocha.ac.jp/campuslife/popp/index.html

② 専修プログラム

文教育学部芸術・表現行動学科と生活科学部食物栄養学科は、４年一貫の専修プログラムに従って学習します。このため、第２のプログラムは履修しませんが、第３のプログラムとして副プログラム又は学際プログラムを選択することができます。

⑶ 自由に選択して履修する科目・単位

自由に選択して履修する科目は、個々の学生が多様な関心や目的を達成するために、学生が自ら計画し、本学全体のカリキュラムの中から自由に選択履修をする科目です。

具体的には、専門教育科目（必修プログラム）は、プログラムとしてではなく、科目単位でも履修することができ、自由に選択して履修する科目の単位に充てることができます。第３のプログラムとして履修した科目の単位はここに含まれます。また、各プログラム修了の必要単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として、卒業に必要な履修単位数に組み入れられます。

⑷ 外国人留学生特別科目

●外国人留学生特別科目「日本語演習」、「日本事情演習」、「総合日本語サマープログラム」の単位の取扱い

日本語、日本事情の授業科目については、次の基準によりコア科目の単位として取り扱います。

学部 / 科目区分	コア科目として取扱う単位数の上限			
	【文教育学部】合計　20 単位	【理学部】合計　16 単位	【生活科学部】合計　18 単位	【共創工学部】合計　18 単位
コ　ア　科　目　基礎講義（実験を除く）	（６単位）	（10 単位）		
外　国　語	（16 単位）	（８単位）		

開設する「日本語演習」、「日本事情演習」、「総合日本語サマープログラム」の授業科目は、次のとおりです。

科目名	単位数	毎週の授業時数
日本語演習ⅠA	2	半期２
ⅠB	2	〃
ⅡA	2	〃
ⅡB	2	〃
ⅢA	2	〃
ⅢB	2	〃
ⅣA	2	〃
ⅣB	2	〃
ⅤA	2	〃
ⅤB	2	〃
総合日本語Ⅰ	2	〃
総合日本語Ⅱ	2	〃

科目名	単位数	毎週の授業時数
日本事情演習ⅠA	2	半期２
ⅠB	2	〃
ⅡA	2	〃
ⅡB	2	〃
ⅢA	2	〃
ⅢB	2	〃
ⅣA	2	〃
ⅣB	2	〃
ⅤA	2	〃
ⅤB	2	〃
総合日本語サマープログラムⅠ	2	前期集中
総合日本語サマープログラムⅡ	2	前期集中

注）①人文科学科、言語文化学科、グローバル文化学環については、最低４単位を外国人留学生特別科目以外の外国語で履修して、外国語の必修単位を満たすこと。

②人間社会科学科、芸術・表現行動学科については、外国人留学生特別科目で外国語の必修単位を満たさない場合は、日本語以外の外国語を履修して、外国語の必修単位を満たすこと。

⑸ カラーコードナンバリング【CCNum】

本学では、すべての授業科目について、カリキュラム構成上の位置づけや到達目標に照らした水準のちがいを数値コードとともに色別で明示しています。

数値コード（ナンバリング）は5桁から成ります。1桁目が科目の位置づけや内容水準の違いをあらわし、異なる色分類と数値が次ページの図のように対応しています。2、3桁目はその科目を開講している学部や学科等をあらわしています。4桁目は現在未使用です。5桁目は16進数表記によるその科目の単位数をあらわしています（ただし、0.5単位の科目はH、海外交換留学等による認定科目はXと表記しています）。

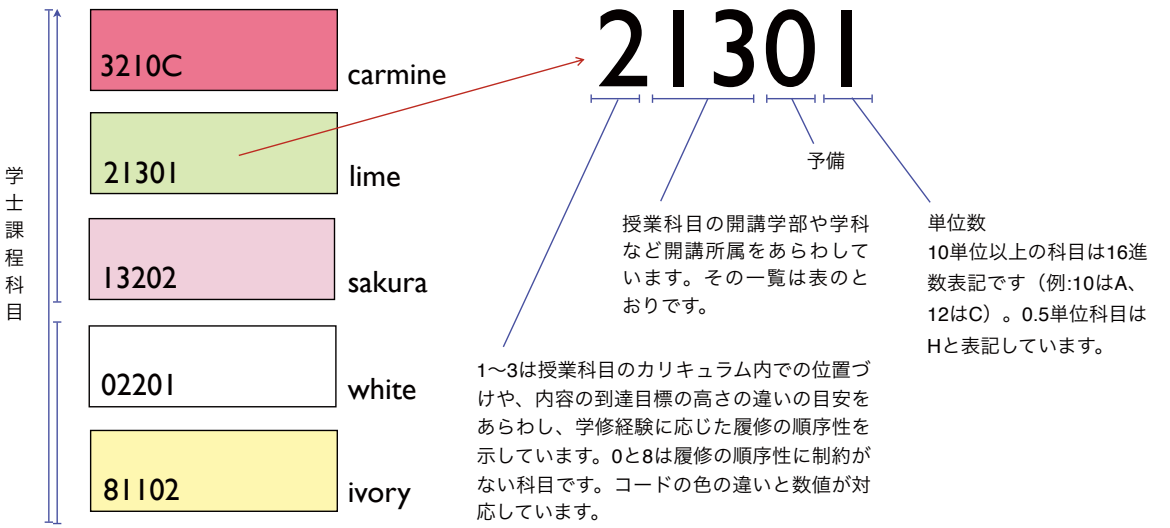
このナンバリングを目安にして、たとえば、科目の開講部局を確認したり、１年次にいきなりカラーコード・カーマインの科目を履修することは難しいと判断するなど、履修計画の立案に役立ててください。

●カラーコードの分類

授業科目の水準とは主としてカリキュラム体系における一般的な学修の順序に対応し、概ね授業内容の難易水準に沿っています。また、それはほぼ到達すべき学修成果の目標の程度にも比例しています。こうした構造は外国語科目や情報関連科目、専門科目にあり、３つのカラーコード（サクラ・ライム・カーマイン）で階層的に表現しています。

これらとは別にカラーコード・ホワイトは他の科目との関連で学修の順序性がなく、基本的には学士課程のどの学年次でも履修できるコア科目、他大学からの編入学などで得た既修得の単位認定科目、あるいは単位互換などによって得た単位認定科目をあらわしています。カラーコード・アイボリーは教職科目等の資格関連科目をあらわしています。

CCN
Color Code Numbering



0　ホワイト　学修順序性がとくにないコア科目、既修得単位や単位互換などによる認定科目。

1　サクラ　カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみて初期に履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易度や到達すべき学修成果の目標の程度が比較的控えめに設定されている科目。

2　ライム　カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみてカラーコード・サクラの科目を履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性はないが、授業内容の難易度や到達すべき学修成果の目標の程度がやや高く設定されている科目。

3　カーマイン　一般的な学修の順序からみてカラーコード・ライムの科目を履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。または、サクラやライムの特定の科目との学修順序が明確になっていてそれらの単位を取得するか、その成績について一定のを超えた場合に履修が認められる科目。また、他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易度や到達すべき学修成果の目標の程度が高く設定されている科目。

8　アイボリー　教職等の資格関連科目。

表

ナンバリング2, 3桁	学士課程　開講学部・学科等
11	文教育学部・人文科学科
12	文教育学部・言語文化学科
13	文教育学部・人間社会科学科
14	文教育学部・芸術・表現行動学科
15	文教育学部・グローバル文化学環
21	理学部・数学科
22	理学部・物理学科
23	理学部・化学科
24	理学部・生物学科
25	理学部・情報科学科
31	生活科学部・食物栄養学科
33	生活科学部・人間生活学科
34	生活科学部・心理学科
40	その他
61	共創工学部・人間環境工学科
62	共創工学部・文化情報工学科

(6) コンピテンシー

コンピテンシーとは、「課題を発見し知識やスキルを状況に応じて組み合わせるなどして、社会の場で成果をあげる包括的能力とその行動特性」を指します。本学では従来からキャリア教育の枠組みの中でコンピテンシーの育成を実施してきましたが、2024年度より、新たに「新たな価値を創造する力」、「対立やジレンマに対処する力」、「責任ある行動をとる力」の3つのカテゴリーに属する10項目の「お茶大コンピテンシー」を定め、どの授業においてそのコンピテンシーを伸ばすことが期待されるかをシラバスに明示しています。自身の強みや弱み、将来の進路希望などを踏まえ、伸ばしたいコンピテンシーを意識して学修に取り組むことで、効果的なコンピテンシーの伸長が期待できます。

また、コンピテンシーを伸ばしうる授業を選択する際、シラバスに記載されている「アクティブラーニング」の項目も参考になります。アクティブラーニングとは、問題解決学習やディベート、ディスカッションなど、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称で、皆さんが能動的に授業に参加することによって、コンピテンシーはもとより、深い知識やスキル、汎用的な能力の獲得が期待されるものです。履修登録時に選択科目を決める際や、必修科目を含め、それぞれの授業から何を主体的に学び取るかを考える参考にしてください。

さらに、本学では、学生の皆さんが、在学中を通じて主体的にコンピテンシーの育成を図っていくことをサポートする「コンピテンシー育成支援システム」を用意しています。履修登録した後は、このシステムに履修登録データを取り込み、継続的なコンピテンシーの育成を行ってください。

●お茶大コンピテンシー

区分	コンピテンシー名	略称	概要
新たな価値を創造する力	批判的思考力	批判	自分の意見や考えを、意識的に見直す力。自分の意見とは違う様々な意見を検討したり、意見に確かな根拠があるかを考える力。
	創造的思考力	創造	新たな価値や優れた考えを生み出す力。
	協働力	協働	個人では得がたい成果をグループ全体で得るために、役割分担したり、助け合ったりする力。
対立やジレンマに対処する力	問題解決力	問題	実際に起きた問題で、解決の道筋が明らかでないものを改善・解決する力。
	他者理解力	他者	様々な人の立場や考え方などを推測したり、理解する力。
	対人葛藤解決力	葛藤	他者の意見や価値観との対立を解決する力。
責任ある行動をとる力	省察的思考力	省察	自らの活動を振り返って気づきを得る力。
	自己制御力	制御	望ましい目標を追求し、望ましくない目標追求を抑制する力。
	内的統制感	統制	自分自身の行動が、ある成果や結果をもたらすという期待。自分でも頑張れば、様々な成果が得られるという感覚を持つこと。
	エージェンシー	エー	社会に望ましい変化をおこすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する力。

●シラバス等への表示形式

コンピテンシーは、その授業科目において伸長が期待されるコンピテンシーがある場合、シラバスや授業検索システムでの検索結果として表示される一覧に最大３つまで表示されています。コンピテンシー名の前に付加されている◎または○の記号は、その授業で該当のコンピテンシーを伸ばすことが期待される経験ができる量の目安を表しています。コンピテンシー名は正式名称または略称で表示されています。

コンピテンシー名の前に付加されている記号

◎＝半数以上の授業回を通じて該当するコンピテンシーを伸ばすことが期待される授業

○＝半数未満の授業回を通じて該当するコンピテンシーを伸ばすことが経験される授業

コンピテンシーの表示例１：正式名称での表示

◎批判的思考力、○創造的思考力、○省察的思考力

コンピテンシーの表示例２：略称での表示

◎批判、○創造、○省察

2 履修登録

履修登録とは、大学で授業を受けるために行う最初の手続きです。高校までとは異なり、大学では自分で履修したい科目を選択し、時間割を組んでいきます。登録した授業に対してのみ、成績の評価と単位が認められますので、定められた期間に必ず手続きを行ってください。

(1) 授業科目の履修

① 履修科目の決定

履修科目の決定においてはシラバス（授業内容、スケジュール、成績の評価方法など授業計画が記載されているもの）、学年担当の教員の指導、この冊子の「学部履修規程」「授業科目一覧」「諸資格の取得」、各学部の履修案内等を参考にしてください。開講学期や授業実施方法等が事情により変更される場合があります。Webシラバス（https://tw.ao.ocha.ac.jp/Syllabus）や学生ポータルサイト（https://tw.ao.ocha.ac.jp）で最新情報を得るようにしてください。

② 履修の手続きについて

履修登録は、Web上で行います。この手続きをしないと単位を修得することができませんので注意してください。日程等詳細は学生ポータルサイトに掲載するので、各自で確認してください。なお、科目によって抽選で履修者を決定することがあり、希望した科目の履修ができない場合もあります。

③ Web履修登録

Web履修登録方法のマニュアルを学生ポータルサイト（インフォメーション＞教務関連＞マニュアル）に掲載しています。具体的な操作方法についてはそちらを参照してください。

履修登録上の注意点

・所定の期日以外、履修登録することはできません。
・履修未登録の場合その科目の試験を受けることはできません。
・授業に出ていても単位修得を希望しない場合は聴講といいます。履修申請の際に聴講欄にチェックをしてください。
・履修登録期間中にシステムエラー等により正常に履修登録ができない場合は、必ず履修登録期間中に学務課までお問い合わせください。履修登録期間外での対応はできかねますのでご注意ください。
・履修登録期間中は、一度履修登録した科目であっても、履修登録の変更が可能です。後から履修取消も可能なので、履修を悩んでいる授業がある場合は、履修登録をしておくことをおすすめします。

(2) 履修の取消し

実際に授業を受けた結果、履修登録時に思い描いていた授業内容と異なったことなどを理由に履修を取り消したくなった場合に、履修取消しが行える「履修取消手続き」制度があります。この手続きは所定の手続期間内に学生自身がWebでの申請を介して行います。

なお、この期間に「履修取消し」した科目に替わる科目の追加登録をしたり、新たな科目を履修登録したりすることはできません。また、この期間外に履修取消しを行うことはできません。ただし、通年科目を前学期中に取り消した場合、その科目と同曜日同時間に開講される後学期の授業科目を登録することはできます。

(3) 聴講

単位修得を前提とせず、知識の修得を目的として受講を希望する場合は、聴講希望科目の担当教員に伝え、聴講許可を得た上で、聴講登録（Web履修登録）をしてください。この場合、授業には出席できますが、単位認定はされません。

(4) 集中講義の履修について

９月卒業予定の４年生は前期の集中講義、３月卒業予定の４年生は後期の集中講義を履修する際は、授業日程によっては、成績評価が卒業判定に間に合わないため「聴講」としての履修になることがありますので注意してください。

3 授業

(1) 四学期制

お茶の水女子大学は、本学における教育の質をさらに高め、グローバルに活躍できる人材を育成するため、平成26年度から四学期制を導入しました。

① コンセプト

◇学修の質のさらなる向上・学修量の確保

四学期制による約２ヶ月の期間に集中して行う授業は、その記憶が鮮明な状態で次回の授業を受講することができ、学修効果が高まります。また同時に履修する授業科目数が減るため、１科目にかける授業時間外学修を含めた学修時間が必然的に増え、個々の科目の学修の質向上につながります。

◇学生の主体的な学修活動の促進・本学学生の留学促進

四学期制により５月に第1学期を終えることで、海外の大学のアカデミック・カレンダーとの互換性が高まり、第２学期を使って海外のサマープログラムなどへ参加できます。これによりグローバルな学修機会を得ることができます。また学期単位を短くすることで、１学期まるごとあるいは夏期休業とその前後の学期を組み合わせた期間に、国内外問わず長期インターンシップやボランティア活動などへ参加することも可能になります。

◇国際的交流の促進

海外の大学が夏休みの期間に、海外の大学教員を招聘して多様で刺激に富む授業の開講や、短期外国人留学生を受け入れる可能性も広がるため、国際的な交流の機会が増えます。

② 二学期制と四学期制

二学期制は、１年を前学期と後学期の２学期に分け、それぞれ約４ヶ月を単位として授業が開講されます。四学期制は、これらの学期をさらに二つに分けて、約２ヶ月を単位とした授業が開講されます。

この二学期制と並行して、四学期制が実施されます。

<table>
<tr><td></td><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td colspan="2">1月</td><td>2月</td><td>3月</td></tr>
<tr><td>二学期制</td><td colspan="4">前学期</td><td rowspan="2">夏期休業</td><td colspan="3">後学期</td><td rowspan="2">冬期休業</td><td colspan="2"></td><td colspan="2" rowspan="2">春期休業</td></tr>
<tr><td>四学期制</td><td colspan="2">第１学期</td><td colspan="2">第２学期</td><td colspan="2">第３学期</td><td>第４学期</td><td colspan="2">第４学期</td></tr>
</table>

③ 授業科目と時間割

二学期制と四学期制の授業科目を組み合わせて履修し、卒業までの単位を取得します。

二学期制の主な授業科目は、前学期・後学期にそれぞれ週1回開講される「半期科目」と、前学期・後学期を通して開講される「通年科目」です。

四学期制の主な授業科目は、「２倍型科目」と「分割科目」です。

２倍型科目は、週２回開講し半期科目の半分の期間で２単位を取得します。同じ日に連続して週２回開講される２倍型科目もあります。

分割科目は、連続した第１学期・第２学期又は、第３学期・第４学期に、週１回開講され、基本的に１単位を取得できます。(1)、(2)など科目名にカッコ付きで表示されているものがこれにあたります。

例）基礎英語Ⅰ(1)
　　基礎英語Ⅰ(2)

１年を通して(1)、(2)、(3)、(4)まである分割科目もあります。

この分割科目は、１単位ごとに独立して履修できる科目と、(1)、(2)の両方を履修しなければ各１単位を取得できない連続性の強い科目があります。

どちらのタイプの科目なのかは、各科目のシラバスで確認できます。

＜基本となる科目の種類＞

二学期制　［A］　半期科目―――　前学期、後学期にいずれか週１回開講。

　　［B］　通年科目―――　前学期、後学期を通して週１回開講。

四学期制　［C］　２倍型科目――　第１学期、２学期、３学期、４学期ごとに週２回開講。

　　［D］　分割科目―――　第１学期、２学期、３学期、４学期に週１回開講。

①　⑴又は⑵を独立して履修・単位取得できる科目。

②　⑴及び⑵を連続して履修しないと単位を取得できない科目。

四学期制時間割のパターン

四学期制の科目……　C　２倍型科目　D　分割科目

第１学期

	月	火	水	木	金	土
１．２限				D⑴		
３．４限	C			C		
５．６限						
７．８限					Ca	
９．10限		Da⑴			Ca	
11．12限						

第２学期

	月	火	水	木	金	土
１．２限				D⑵		
３．４限						
５．６限						
７．８限						
９．10限		Da⑵				
11．12限						

第３学期

	月	火	水	木	金	土
１．２限						
３．４限						
５．６限						
７．８限						
９．10限		Da⑶				
11．12限						

第４学期

	月	火	水	木	金	土
１．２限						
３．４限						
５．６限						
７．８限						
９．10限		Da⑷				
11．12限						

④　第２学期を利用した海外留学

第２学期を利用して海外のサマープログラムに参加したい場合、連続性の強い分割科目［上図D⑴］を第１学期に履修し、第２学期に［D⑵］が未修得であっても、翌年次の第２学期に［D⑵］を履修することにより分割科目［D⑴、D⑵］の各１単位を修得することができます。科目によっては留学先で取得した単位を、第２学期に未履修だった科目として認定可能な場合もあります。

本学は、在学中に交換留学をはじめとした海外留学を積極的に推進しています。交換留学の募集は毎年、第３学期の10月に行われるため、その前の第２学期に海外語学研修や海外サマープログラムに参加し、留学生活の醍醐味を体験してみることをお勧めしています。また交換留学には一定の語学力が求められますので、交換留学に必要な語学力を身につけるためにも、第２学期を効果的に利用するとよいでしょう。

⑵　授業と休日

休業日は学則「第３節　学年、学期及び休業日」の中に定められています。しかし、いろいろな行事や事由のため臨時に授業が休みとなる場合があり（半日、全日等）、春、夏、冬の休業期間の始めや終わりも必ずしも学則どおりにいかない場合もあります。それらはすべて学務課を通して掲示又は学生ポータルサイトを使ってお知らせします。

二学期制

学期	期間
前学期	４月１日から９月30日まで
後学期	10月１日から翌年３月31日まで

四学期制

学期	期間
第１学期	４月１日から９月30日までの間で別に定める。
第２学期	
第３学期	10月１日から翌年３月31日までの間で別に定める。
第４学期	

授業時間（月曜日～土曜日）

０限	８：０５　～　８：５０
１・２限	９：００　～　１０：３０
３・４限	１０：４０　～　１２：１０
５・６限	１３：２０　～　１４：５０
７・８限	１５：００　～　１６：３０
９・10限	１６：４０　～　１８：１０
11・12限	１８：２０　～　１９：５０

(3)　休講

授業担当教員が公務、学会出席、病気等のためやむを得ず休講となる場合は、教員からの連絡により、学生ポータルサイトに掲載されます。学生ポータルサイトはパソコン及び携帯電話で確認できます。なお、学生ポータルサイトへのアクセスには「お茶大情報アカウント」が必要です。

https://tw.ao.ocha.ac.jp

(4)　補講

各学期末に補講期間を設けています。補講の有無については、当該授業で確認してください。また、交通機関のストライキ・台風等による運休に対する措置で休講となった授業の補講については、別途発表します。

(5)　台風等による交通機関の運休及び台風等非常時に対する授業関係措置

休講情報は学生ポータルサイトに逐次掲載します。

①　台風等による交通機関の運休に対する授業休講等の措置について

台風及びストライキ等により次のいずれかの交通機関が運休した場合、以下のとおり授業休講等の措置をします。

・JR山手線

・東京メトロ丸ノ内線及び有楽町線

授業取扱

運休時間	授業の取扱い
当日午前6時30分までに運転開始	平常どおり
当日始発から午前6時30分まで運休	午前中休講
当日始発から引き続き午前10時まで運休	全日休講

ただし、JR山手線の部分ストライキ（拠点ストライキ）等による運休の場合は平常どおり授業を行います。

②　台風等による気象警報の発表に伴う授業休講等の措置について

台風により、気象庁から東京都に「特別警報」または東京23区西部に「暴風警報」（大雨、洪水、大雪、暴風雪を除く）が発令された場合、授業の取扱いは、次のとおりです。

東京都に「特別警報」または東京23区西部に「暴風警報」（大雨、洪水、大雪、暴風雪を除く）	授業の取扱い
午前6時30分の時点で、警報が発令中の場合	午前中授業休講
午前10時の時点で、警報が発令中の場合	５・６、７・８時限の授業を休講
午後２時の時点で、警報が発令中の場合	９・10時限以降の授業を休講

情報の確認は下記の方法により、確認してください。

・気象庁のホームページ　https://www.jma.go.jp/jma/index.html

・テレビ・ラジオ等のマスメディアによる確認

③ その他、気象状況の悪化、不測の事態による休講の取扱いについて

休講となった授業の補講については、別途措置します。

⑹　公欠等についての取扱い

学校保健安全法に定められた感染症と診断された場合は、他の学生等に感染させてしまう恐れがあります。その場合は、治癒が確認された後に、医師の診断書を学務課に提出してください。授業担当教員に、欠席及び評価に対する配慮を依頼する文書を交付します。

また、教育実習・介護等体験・博物館実習・管理栄養士国家試験受験資格を得るための臨地実習、公認心理師の受験資格を得るために必要な実習、裁判員（※１）に選出された場合の欠席の取扱いは公欠としますので、公欠願を学務課で受け取り、授業担当教員まで提出してください。

※１　裁判員制度による招集の場合

該当する学生は、呼出状を学務課に提示（確認後返却）の上、授業を受けられない日時を記入した公欠願の用紙を提出してください。授業担当教員には、学務課から当該学生について連絡をし、履修上の配慮を依頼します。なお、定期試験期間中の場合は、追試験の対象とします。

⑺　学士・修士一貫教育トラックについて

本制度は、大学院進学を志願する一貫トラック学生に対して、学部在学時から大学院授業科目の受講を認め、研究指導を行うことにより、専門的な学修を促進することを目的としています。学部在学時に受講し成績評価された大学院科目は、本学大学院進学後に大学院科目として認定することができます。

一貫トラック学生の選抜方法や受講可能な授業科目等は、大学院における各専攻・コースで異なります。詳細については担当教員にご相談ください。

4 単位制

各授業科目の単位は以下に述べるように、教室における学習だけで成り立っているわけではありません。教室での課題に対するレポート作成、予習・復習などの学習時間が含まれています。

この考え方は、下記の〔１単位の基準〕に基づくもので、このことを理解したうえで、１年間に履修登録する上限を46単位程度とし、実り多い履修を心がけてください。なお、この上限設定は、教員免許状等の資格取得のための科目履修には適用されません。

Ⅰ

⑴　単位の基準

〔１単位の基準〕

各授業科目は、１単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準として、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとなっています。

◇講義、演習については、15時間の授業をもって１単位とします。

◇実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって１単位とします。

ただし、個人指導による実技及び教育実習等の授業科目、並びに卒業論文、卒業研究、特別研究又はこれに準ずる授業科目や資格に関する授業科目については、別に定めるところによります。

⑵　入学以前、在学中に他大学等において修得した単位又は転学及び編入学した既修得単位の認定

入学以前に修得した単位（検定等を含む）、在学中に他大学等で修得した単位、転学及び編入学した既修得単位の認定を受けようとする者は、別紙様式１による「他大学等において修得した単位等に係る認定願」に成績証明書等を添えて、申請期限内に速やかに当該学部長に願い出てください。当該学部長は、教育上有益と認めるときは、当該学科長及び願い出のあった授業科目の関係教員等と協議のうえ、当該教授会の議を経て、既修得単位の認定を行います。

当該学部長より認定した科目及び単位について、別紙様式２による認定書が交付されます。

なお、単位の認定を行った場合は、認定した単位に代えて、他の授業科目の履修を行うなど履修内容の有益化を図るよう、各学部からの指導をうけてください。

○**申請期限**――入学以前に修得した単位及び検定等に合格している単位の認定については、入学した年度の第１学期・第２学期・前学期履修登録期間の指定する日まで　（学務課に申請の申し出をし、申請手続きの指示を受けること）、それ以外の海外語学研修及び海外交換留学における単位の認定については、その都度申請期限を設けて受け付けます。

別紙様式１

他大学等において修得した単位等に係る認定願

令和　年　月　日

学部長　殿
所属　　学部　　学科　　年
学籍番号
氏名　　印

教員免許状取得予定の有無　はい・いいえ

学則第11条
学則第12条
学則第16条２
の規定により単位の認定を受けたいので、関係の証明書を添付の上、下記により申請します。

認定を受けようとする科目・単位			認定の対象となる他大学等において修得した科目・単位等			
科目区分	授業科目名	単位	授業科目名等	単位等	平価等	備　考

○単位等の修得を行った機関名
○単位等の修得を行った時期　　年度（　年　月　日ー　年　月　日）

別紙様式２

他大学等において修得した単位等に係る認定書

所属　　学部　　学科　　年
学籍番号
氏名

認定する授業科目				認定の基礎となった単位等			
科目区分	授業科目名	単位	評価	授業科目名等	単位等	平価等	備　考
合　計		単位					

学則第11条
学則第12条
学則第16条２
の規定に基づき、上記のとおり本学において修得又は履修したものとみなし単位を認定する。

令和　年　月　日　　お茶の水女子大学　学部長　印

Ⅱ

(1) 外国語検定による単位の認定

入学以前の実績として、『実用英語技能検定』１級又は準１級の合格者、『TOEIC』680点以上、『TOEFL』72（iBT）点以上、『IELTS』６以上、『GTEC』1190点以上のオフィシャルスコアを持つ者、『中国語検定』４級以上の合格者、『中国語コミュニケーション能力検定』250点以上のスコアを持つ者、『漢語水平考試』２級以上の合格者、『実用フランス語技能検定試験』４級以上の合格者、『DELF』A1以上の合格者、『ドイツ語技能検定試験』３級以上の合格者、『Goethe-Zertifikat』（Goethe Institut主催）A1以上の合格者、『ÖSD』（ÖSD主催）A1以上の合格者、『TestDaF』（TestDaF Institut主催）TDN3以上の合格者の単位認定は、別紙様式１による「他大学等において修得した単位等に係る認定願」にそれぞれの基準を満たしていることを証明する書類を添えて、当該学部長に願い出てください。

当該学部長は、関係学科教員等と協議のうえ、当該教授会の議を経て、認定を行います。なお、単位の認定を行った場合は認定した単位に代えて、他の授業科目の履修を行うなど履修内容の有益化を図るよう、各学部からの指導を受けてください。

〔認定できる単位数〕

授業科目区分	認定できる単位数
コ ア 科 目	※60単位を限度とする。
専門教育科目	
その他の授業科目	

※本学において修得した単位以外のものについて、上記単位数を上限とします。なお、各外国語検定等による認定単位は以下の表のとおりとします。

認定科目及び単位一覧

授業科目	条　件	認定科目・単位
実用英語技能検定	準１級合格者	「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する４単位を認定する。
	１級合格者	「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」及び「グローバル・イングリッシュⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する12単位を認定する。
TOEIC	680点以上815点未満	「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する４単位を認定する。
	815点以上	「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」及び「グローバル・イングリッシュⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する12単位を認定する。
TOEFL	72(iBT)点以上92(iBT)点未満	「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する４単位を認定する。
	92(iBT)点以上	「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」及び「グローバル・イングリッシュⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する12単位を認定する。
IELTS	６以上７未満	「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する４単位を認定する。
	７以上	「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」及び「グローバル・イングリッシュⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する12単位を認定する。
GTEC	1190点以上1350点未満	「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する４単位を認定する。
	1350点以上	「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」及び「グローバル・イングリッシュⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する12単位を認定する。
中国語検定	４級合格者	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する８単位を認定する。
	３級以上合格者	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定する。
中国語コミュニケーション能力検定	250点以上400点未満	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する８単位を認定する。
	400点以上	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定する。
漢語水平考試	２級合格者	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する８単位を認定する。
	３級以上合格者	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定する。
実用フランス語技能検定試験	４級合格者	「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する８単位を認定する。
	３級以上合格者	「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎フランス語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展フランス語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展フランス語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定する。

授業科目	条　件	認定科目・単位
DELF	A1合格者	「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する８単位を認定する。
	A2以上合格者	「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎フランス語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展フランス語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展フランス語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する 12 単位を認定する。
ドイツ語 技能検定試験	３級合格者	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する８単位を認定する。
	２級以上合格者	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎ドイツ語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する 12 単位を認定する。
Goethe-Zertifikat、 ÖSD、TestDaF	A1合格者	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する８単位を認定する。
	A2以上合格者 （TestDaF の場合 TDN3 以上）	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎ドイツ語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する 12 単位を認定する。

(2)　海外研修による単位認定

A．本学が提携した海外の大学での英語語学研修を行うことにより、４単位までコア科目（外国語）の英語の単位として認定します。

①研修の参加資格は以下のとおりです。

１）外国語（英語）の単位を＊から４単位をすでに修得済み、または履修中であること。

２）事前・事後教育に参加できること。

②以下の条件を満たし、所定の期間に単位認定の申請を行うと、コア科目（外国語）の英語の単位が認定されます。この制度による認定単位数は４単位を上限とします。

認定可能な科目と単位数は研修ごとに異なるため、詳細は研修説明会にて発表します。

１）本学で行う事前・事後教育に参加すること

２）海外研修の全期間にわたって研修に参加すること

３）研修を受けた大学により研修の修了が認められること

４）本学で課した課題を研修後に提出すること

③研修希望の提出等に関する手続きについては、学生センター棟の掲示をよく見て、指定された期間内に申し込んでください。参加希望者が募集定員を上回った場合は選考を行います。

B．前項Aで規定された「本学が提携した海外の大学での語学研修等によるコア科目外国語（英語）単位認定（４単位まで）」以外にも、次の３つのいずれかの場合に、それぞれの条件を満たすことでコア科目外国語（英語）の単位認定が行われます。

１）本学が提携した海外の大学での語学研修、ならびに語学教育の内容を含む海外研修により、あらためて５単位目～８単位目の海外の大学での語学研修による単位認定を希望する場合。条件：前項Aで規定するすべての条件を満たした上で、単位認定の申請を行う日までに英検１級合格、TOEFL iBT82 以上、TOEIC750 以上、IELTS 6.5 以上のいずれかを取得していること。

２）本学との大学間交流協定提携校でないがSAF（The Study Abroad Foundation）に加盟する海外の大学における語学研修（英語）を修了し、入学以降海外の大学での語学研修等によって認定される初めの４単位までの認定を申請する場合。条件：単位認定の申請を行う日までに英検準１級合格、TOEFL iBT72 以上／CBT200 以上／PBT530 以上、TOEIC 680 以上、IELTS ６以上のいずれかを取得していること。また出発前に、必ず国際教育センターに相談して「単位取得予定表」を学務課に提出すること。

３）本学との大学間交流協定提携校でないがSAF（The Study Abroad Foundation）に加盟する海外の大学における語学研修（英語）を修了し、あらためて５単位目～８単位目の、海外の大学での語学研修等による単位認定を申請する揚合。条件：単位認定の申請を行う日までに英検１級合格、TOEFL iBT82 以上、TOEIC750 以上、IELTS6.5 以上のいずれかを取得していること。また出発前に、必ず国際教育センターに相談して「単位取得予定表」を学務課に提出すること。

上記１）２）３）のいずれの場合も、海外研修終了後直ちに国際教育センターに報告し、同センターの指導に従って所定の期間に、当該海外語学研修等の修了証および当該試験の合格証またはスコア証明書を添えて、学務課で単位認定申請の手続きをしてください。審査の上、所属する学部の教授会の議を経て認定を行います。

(3) 学部学生交流協定に基づく単位互換制度

当該大学の授業科目の履修（特別聴講学生）を希望する学生は、申込関係の資料を学務課で受け取り、所定の期日までに手続きをしてください。

学部学生交流協定校一覧

協定先	受入・派遣学生の条件					履修可能学部
	対象学年	文教育学部	理学部	生活科学部	共創工学部	
東京工業大学	—	○	○	○	○	
東京芸術大学	—	○	○	○	×	音楽学部
共立女子大学	—	×	×	○	×	家政学部
東京外国語大学	2年生以上	○	○	○	○	言語文化学部／国際社会学部／国際日本学部
東京海洋大学	—	×	○	×	×	海洋生命科学部／海洋資源環境学部
一橋大学	2年生以上	○	○	○	○	商学部／経済学部／法学部／社会学部
早稲田大学	4年生	×	○	×	×	先進理工学部
中央大学	—	○	○	○	○	

派遣学生申請書

派遣学生申請書

令和　　年　　月　　日

文教育学部長
理学部長
生活科学部長
共創工学部長　殿

所　属　　学部　　学科　　コース・講座
氏　名
学籍番号
連絡先

私は、令和　　年度に　　大学　　学部において下記科目を履修したいので、派遣学生として許可願います。

記

科目番号			
科目名			
教員名			
単位数			
学期			
曜日			
時限			
※選択科目として認定を希望する場合は、本学の読み替え科目名			

●読み替え科目については、学科の承認を得ること。

上記科目を履修することを承認します。

学科長

氏　名　　㊞

5 学修成果

(1) お茶の水女子大学アカデミック・エシックス

「学ぶ意欲のある全ての女性の真摯な夢の実現の場として存在する」

お茶の水女子大学は140年の歴史を通して、女性が高等教育を受けることのできる唯一の場として、先駆的な女性が多く学び、それぞれに社会をリードしてきました。その精神を今日も受け継ぎつつ、真摯に学ぶ女性を育成し、教育と研究の成果を社会に還元することによって、日本のみならず国際的に社会をリードし未来を創造しうる女性のためのより高度な教育研究機関となることを志向しています。

学びにおいて、自らの問題関心・研究テーマを、自らの努力によって怠りなく「磨き続ける」ことが求められます。本学では、高度な専門教育と並んでリベラル・アーツ教育を重視しており、学びの中で問題関心を広げ、専門を深め、固有のテーマを発見していくことが求められます。本学で学ぶ学生が、自らの関心において、また自らの責任において、学びを実現することを目標としています。

学びには、責任が伴います。著作権・プライバシーなど、研究活動によって他人の権利を侵害するようなことはあってはなりません。

上記の精神は、皆さんが日々の学修成果を表す場（試験やレポート等）においてもぜひ反映させていただくことを望みます。学問に対して真摯な態度で臨むことは、高等教育を受ける者として何よりも基本的なことです。

大学は、文化を創造し、自然の原理を探求する場です。自らの研究に責任を持ち、お茶大生として先人の業績に敬意を払い、自らの知と新しい文化を創造することを意識してください。

(2) 試験

各学期の終りに一定の期末試験が設けられています。各科目とも開講学期の終了時に試験を行うのが原則です。(1)(2)が付く科目のうち連続して履修を行う科目は、(1)終了時の試験を省く場合もあります。

これらの試験は、その期間内の平常の時間割で行われるのが通例です。学生は、事前に教員と必ず打ち合わせ、筆記試験・レポートの別、その日時・場所について承知しておかねばなりません。

なお、試験の際には学生証の提示を求める場合があります。また、遅刻した場合の入室制限及び退室を認める時間を設けることがあります。

不正行為

カンニング等の不正行為は学生にとってあるまじき行為であり、本学では以下のように処します。

Ⅰ　試験において不正行為を行った者については、理事・副学長（教育担当）は、別に定める手続きにより、次の措置を行います。

(1)　当該学期履修科目の全ての受験科目を無効とする。

(2)　学内に当該措置（措置事例）について告示する。

Ⅱ　前項の不正行為については、同項に規定する措置のほか、学則第59条及び国立大学法人お茶の水女子大学学生懲戒規程に定める懲戒の対象とします。

追試験

病気その他、止むを得ない理由により、期末試験を受けられなかった学生については、担当教員が特に必要があると認めた場合に限り追試験を行うことがあります。

追試験を希望する者は当該期末試験終了後１週間以内に学務課に「追試験願」及び「欠席理由を証明する書類」を提出しなければなりません。「追試験願」は学務課で配付します。

ただし、卒業予定者は前記に関わらず、直ちに申し出ることとします。

⑶　レポート、論文提出

成績評価は筆記試験のほかに、レポートや論文提出によって行われる場合もあります。レポート・論文作成においても、以下のような不正行為を絶対に行ってはいけません。

本学では学則第59条に規定する懲戒の対象となります。

＜レポート、論文における不正行為の例＞

・文献や著書、論文、資料、インターネット上の文章、図表、写真や絵などを、引用先を明記しないまま、自分のオリジナルであるかのように用いること。

・先輩や友人、知人などが作成した文章、図表、写真や絵などを、自分が作成したものとして用いること（レポートの使い回し）。

自分のレポート・論文上で他人のアイデアを盗用することは、筆記試験におけるカンニングと同様の不正行為です。評価する側から見れば、コピー＆ペーストによって作成されたレポートや論文かどうかは明らかにわかります。

以下のルールを守ってレポートや論文を作成してください。

＜レポート、論文作文のルール＞

・文献や著書、論文、資料、インターネット上から引用した場合は、引用部分を「」などで明示し、どこからどの部分を引用したのか明記すること。

・自分のレポートや論文で述べる見解や発想が、何らかの文献や著書、論文、資料、インターネットに負っている場合は、それがどこであるかを明らかにすること。

※詳細は各授業担当の教員に確認してください。また、図書館にレポートや論文の執筆の方法について書かれた参考書のコーナーがありますから、参考にしてください。

⑷　成績評価

①　成績評価

成績の評価は、原則として試験、平常の学修成果を総合しておこなわれ、100点満点で、60点以上を合格とする素点から算出されるグレードポイント（下記）、および以下の対応関係によるレターグレード（S、A、B、C、D（不合格））による評定で表現されます。成績証明書には合格科目のみ、学修状況チェックシステムによる成績通知には不合格科目も含めて記載します。

レターグレードと素点区間、及び評価基準の対応関係は次のとおりです。

S（90点以上）：　基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。

A（90点未満～80点以上）：　基本的な目標を十分に達成している。

B（80点未満～70点以上）：　基本的な目標を達成している。

C（70点未満～60点以上）：　基本的な目標を最低限度達成している。

D（60点未満）：　基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。不合格。

成績評価は上記の評価基準のほか、S評価を評価対象者の15%以内（履修者数が10名未満の場合は２名以下）に留めることを目安にする評価基準があります。履修取消し手続きをせずに履修放棄によって評定できなくなった場合はD（不合格）となります。授業科目によって素点評価がなされる場合とレターグレードで評定される場合がありますが、後者の場合はつぎの規定により素点が定まります。

S = 95、A = 85、B = 75、C = 65、D（不合格）= 55

②　ＧＰＡ制度

本学は国際標準に則し米国やアジア諸国で広く使われているＧＰＡ（Grade Point Average）を学修成果指標に用いています。この指標は、以下の③に示したように、各学生の授業科目ごとの成績評価をグレードポイント（ＧＰ）に置き換え、そのＧＰに当該科目の単位数を乗じて、それらを履修数分合算し、その値を履修総単位数で割った値です。

ＧＰＡ制度は単位数という学修の「量」とともに、成績評価に基づく学修成果の「質」についても成果を保証する評定です。ここでは学生にとって大切と思われるＧＰＡの目的や効果を３つあげます。

1） 学ぶ意欲がいっそう増す

個々の科目における学修改善努力が成績に反映しやすくなります。成績評価が５段階程度であらわされると、多少の努力は成績評価値になかなか反映されません。しかし、本学のＧＰＡでは科目の試験やレポートの素点評価がそのままＧＰＡに反映します。そのため、学修努力の違いが成果の差異として可視化されやすくなります。成績改善に向けた動機も高まり、授業への積極的な参加意欲が増すことになるでしょう。

2） 不合格を避け、しっかり履修

ＧＰＡの算定ではある科目が不合格になると、そのＧＰは０で、しかもＧＰＡ算定の分母にはその科目の単位数が加算されます。そのため、不合格をとるとＧＰＡの値に大きなダメージを負います。履修した科目は不合格にならないように気をつけることが大事になります。科目履修の際に必要以上に多くの科目を履修してあとで負担にならないよう十分留意し、計画的な履修をすることが大切です。

3） 自分の成績の位置づけがわかるとともに各種選考基準の透明性が増す

学期ごとに学修した科目のＧＰやＧＰＡ値を確認しながら、自分の成績の相対的な変化を確認していくことができます。さらに、奨学金の貸与基準、特定の科目の履修基準、種々の学内選考の際の基準指標などにＧＰＡ値が使われることもありますので、目指すべき成績について具体的な目標を設定しやすくなります。また、就職や留学、進学など対外的な場面で、この値が求められても対応できます。

③ ＧＰＡの算定方法

ＧＰＡは、授業科目ごとの成績評価（100点満点の素点評価SS）を１）の算定方法でＧＰに置き換え、２）により、そのＧＰに当該科目の単位数を乗じて、それを履修科目数分合算し、その値を履修総単位数で除することにより求めます。

1）ＧＰ＝（SS－55）／10　　ただし、ＧＰ＜0.5はＧＰ＝0.0とする。

SSは100点満点の素点評価

2） ＧＰＡ＝（履修科目のＧＰ×当該科目の単位数）の総和　／　履修総単位数

・履修総単位数には不合格となった科目（ＧＰ＝０）の単位数も含まれる。

④ ２つのＧＰＡ指標（f-general ＧＰＡとf-strict ＧＰＡ）の併用

本学ではＧＰＡの機能特性を十全に発揮させ、かつ国内外の大学との通用性を確保するため、f-strict ＧＰＡとf-general ＧＰＡ（f-はfunctionalの略）、２つの指標を併用します。

f-strict ＧＰＡは現在、多くの大学で採用されているＧＰＡと実用上、十分な互換性をもっていることが検証済みです。しかし、成績両端のゾーンではとくに米国と我が国の多くの大学においてＧＰ（Ａ）の最高点を4.0、合格域の最低点を1.0にしているのに対して、f-strict ＧＰ（Ａ）では最高点が4.5、最低点が0.5になります。そこで他機関との通用性を優先して、対外的に用いるＧＰＡとしてf-strict ＧＰが4.0以上の値（100点満点換算で95点以上）を一律4.0、1.0以下、0.5以上の値を一律1.0にしたf-general ＧＰも用います。

一方、学内でＧＰＡを種々の用途に使う場合には（成績の合格域全範囲について原成績を忠実に反映する）f-strict ＧＰ（Ａ）を用います。

＜算定例＞

functional ＧＰＡ算定の例示

５科目17単位分の場合のＧＰとそのアベレージがどのように求められるかを例示します。

科目名	単位数	成績評点	ＬＧ	f-strict ＧＰ	f-strict ＧＰ×単位数	f-general ＧＰ	f-general ＧＰ×単位数
地理概論	2	84	A	2.90	5.80	2.90	5.80
地学	2	98	S	4.30	8.60	4.00	8.00
地学演習	4	50	D	0.00	0.00	0.00	0.00
地学実験	1	66	C	1.10	1.10	1.10	1.10
卒業研究	8	70	B	1.50	12.00	1.50	12.00
計	17				27.50		26.90

５と７カラム目のＧＰは次式で求めます。成績評点は100点満点です。科目によっては小数点以下の値をもった評価もありえます。

ＧＰ＝（成績評点－55）／10　（ただし、ＧＰ＜0.5はＧＰ＝0.0とする）

最後に、ＧＰＡ＝Σ（ＧＰ×当該科目の単位数）／　履修総単位数

ですので、上例では、

f-strict ＧＰＡ＝27.50 ／17＝1.617

f-general ＧＰＡ＝26.90 ／17＝1.582　となります。

⑤ ＧＰＡ算定の対象科目

他大学などでの履修（留学を含む）や科目等履修、あるいは本学における評価でレターグレードや素点ではなく、単位認定として評価される科目あるいは「合格・不合格」による評定で成績がでる科目を除くすべての科目が対象になります。

⑥ ＧＰＡの算定期日

ＧＰＡの算定は、ＧＰＡ算定基準日までに確定した成績に基づいて行います。算定基準日は原則、前期は9月中旬、後期は3月中旬です。前期に算定される科目は、当該年度の前学期、第１学期、第２学期で履修した科目を含めた入学して以降の全履修科目です。後期に算定される科目は、当該年度の後学期、第３学期、第４学期、通年で履修した科目を含めた入学して以降の全履修科目です。

⑦ 成績証明書への記載

成績証明書にはその趣旨説明とともにf-strict ＧＰ（Ａ）、f-general ＧＰ（Ａ）両指標を併記します。また、ＧＰＡ算定方法の説明や「不可」評価の単位数を記載し、成績とＧＰＡ間の整合性を明白にします。

⑧ 成績評価情報に関する利用について

成績評価は、本学成績評価情報に関する利用ガイドライン等の定めに従い、個人情報保護を徹底した上で、調査・研究あるいは学修支援に利用することがあります。

6 学修状況チェックシステム

※学修状況チェックシステムは、今年度前期より新システムに移行します。前期の学期末に学修状況チェックシステムの利用方法や表示内容についての説明資料を配布する予定です。

学修状況チェックシステムについて

学修状況チェックシステムは、学生・大学の両方向から、学修状況を確認することのできるシステムです。

学生は、スマートフォンやPCを用いて自分の成績や取得単位数などの学修状況をWEBからいつでも確認できます。自分の成績や取得単位数をひとりひとりが把握・可視化することで、主体的に学修の計画が立てられるよう支援しています。成績一覧表だけでなくグラフや表からも自分の状況をモニタリングすることができるので、どのような履修登録をし、どのような目標を持って学修をすすめるのかなど、卒業までの学修の計画が立てやすくなっています。また、学修成果を可視化することで、自分の現在の成績や修得単位数に基づいて、次の学期の受講計画を修正するなど、より質の高い学修に向けて学修改善のサイクルを回すことができます。

大学も提供する教育の質を確認するために、授業アンケートなど各種調査を行っていきます。学生のみなさんは、大学へ自分の意見や意識を伝えることができる機会でもありますので、自分自身の学修改善だけでなく、大学としての学修改善としても機能するよう積極的に回答をお願いします。

① アクセス方法 = スチューデントアクセス

本学のウェブサイトの随所（大学トップページの「在学生の方」や学生ポータルサイトなど）にリンクがあります。日常使いには「スチューデントアクセス（左図）」から入るのが便利でしょう。

スチューデントアクセスには、本学での学修にあたり頻繁に利用するサイトへのリンクボタンが集約されています。たとえば、年間の学事日程、授業支援システム、シラバス、教務システム、授業アンケート、海外渡航申請、卒業生進路情報などです。ここに学修状況チェックシステムへのボタンもあります。

また、スチューデントアクセスは本学のシステムの運用状況に応じて、リンクボタンの配置や数が変更になることがあります。例えば、本学で新しいシステムを導入した場合にはリンクボタンが追加されることや、特別な調査の回答期間中には調査回答ページに直接接続できるボタンが増えることもあります。

※左の図は2024年1月11日時点での図です。

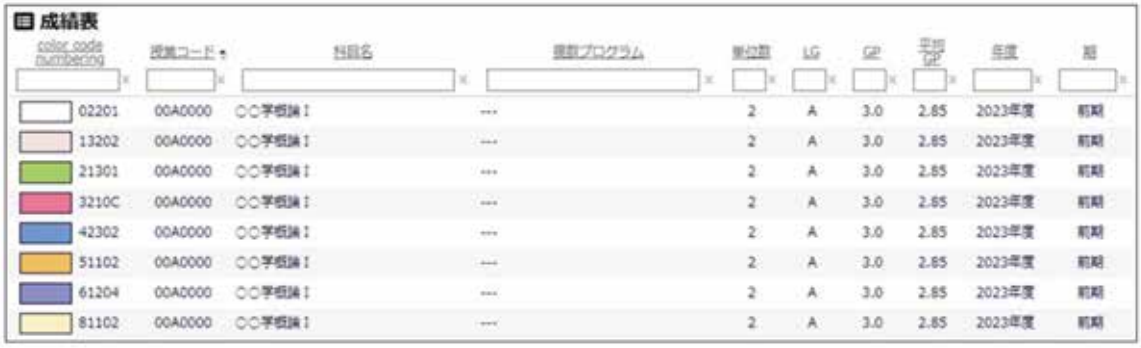
② 学修状況チェックシステム

学修状況チェックシステム 成績一覧表（参考イメージ図）

学務課で発行される成績証明書とは別に、オンラインで学修状況を確認できるシステムです。学期ごとの取得単位数およびGPAの推移、現在までの成績構成割合、入学以来履修した全て科目の成績一覧表などがグラフや表で示されます。

※学修状況チェックシステムに関係する図は全てイメージ図となります。新システム開発中のためこれらの図に関しては変更の可能性があります。

学修状況チェックシステム 学期ごとGPAと現在までの成績構成（参考イメージ図）



成績表

color code numbering	授業コード	科目名	履修プログラム	単位数	LG	GP	平均GP	年度	期
02201	00A0000	○○学概論Ⅰ	---	2	A	3.0	2.85	2023年度	前期
13202	00A0000	○○学概論Ⅰ	---	2	A	3.0	2.85	2023年度	前期
21301	00A0000	○○学概論Ⅰ	---	2	A	3.0	2.85	2023年度	前期
3210C	00A0000	○○学概論Ⅰ	---	2	A	3.0	2.85	2023年度	前期
42302	00A0000	○○学概論Ⅰ	---	2	A	3.0	2.85	2023年度	前期
51102	00A0000	○○学概論Ⅰ	---	2	A	3.0	2.85	2023年度	前期
61204	00A0000	○○学概論Ⅰ	---	2	A	3.0	2.85	2023年度	前期
81102	00A0000	○○学概論Ⅰ	---	2	A	3.0	2.85	2023年度	前期

学修状況チェックシステム 成績一覧表（参考イメージ図）

③ 授業アンケートシステムとの連携について

学修状況チェックシステムの接続ルート

授業アンケートは学修状況チェックシステムと紐付いたシステムとなっており、学期末におこなわれる前期および後期の授業アンケート回答期間中は学修状況チェックページに入る前にアンケート回答ページに自動的に接続されるようになっています。アンケートに一度回答完了すると、その後は回答期間中であっても通常と同様に学修状況チェックページに接続されるようになります(「学修状況チェックシステムの接続ルート」の図を参照)。これは、各授業の担当教員と学生の間で、授業成果を振り返り、双方向のコミュニケーションを作ることで共に授業の質を高めあうための仕組みであるとともに、アンケートの回答結果が当該授業の成績評価の良し悪しにより影響を受けないようにするための措置でもあります。前述したように、学修状況チェックページへの接続は、大学のホームページの在学生ページやポータルサイトからも接続できますが、学生生活でよく使うページのリンク集である「スチューデントアクセス」からの接続が最も分かりやすいルートになっています。

7 学籍・修業年限・学費

学籍とは、本学の学生としての身分を有していることをいいます。学籍は入学によって発生し、卒業、退学、除籍によって失われます。在学とは、学生が本学の学籍を有し、現に学修している状態をいいます。在学期間とは、その学修している期間をいいます。修業年限とは、本学の教育課程を修了するために必要な最小の在学期間をいい、在学年限とは、本学に在学できる最長の在学期間をいいます。なお、休学期間は在学期間には含めません。

(1) 修業年限

修業年限は４年です。修業年限の２倍を超えて在学することはできません。ただし、３年次編入学による学生は、修業すべき年数（２年）の２倍を超えて在学することはできません。また、入学前に、本学の科目等履修生として一定の単位を修得した者が入学する場合、規定により認められた単位の全部、又は一部が教育課程の一部を履修したと認められるときは、当該学部教授会の議を経て、規定する修業年限について当該単位数、その修得に要した期間その他を考慮して、２分の１を超えない範囲でその修業年限に通算することができます。

(2) 休学

病気その他の事由により引き続き２か月以上修学することができないときは、事由を添えて学長に願い出てその許可を得る必要があります。なお、休学の期間はその学年末までとし、特別の事情があるときは、引き続き休学を願い出ることができます。

■留意事項

・休学期間は、通算して定められた修業年限の年数を超えることができません。
・休学期間は、在学期間には算入しません。
・休学期間中にその事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができます。
・休学期間中は、授業料は発生しません。
・休学期間満了後、「復学」「退学」「休学の延長」等の申し出がない場合は授業料の納入が必要となります。

(3) 復学

休学の理由が解消して復学を希望する者は、その理由を具して学長に願い出て、許可を受けなければなりません。

(4) 退学

退学を希望する者は、その理由を具して学長に願い出て、許可を受けなければなりません。

(5) 除籍

次の各号のいずれかに該当する者は、当該学部教授会の議を経て、学長が除籍します。

・授業料を２期連続して滞納し、督促してもなお当該２期分を納付しない者【P.308参照】
・本学則に定める第８条第２項及び第３項に定める在学年限を超えた者
・本学則に定める第33条第３項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
・死亡した者又は長期間にわたり行方不明の者
・入学料の免除を申請した者で、免除を許可されなかった場合又は半額免除を許可された場合であって、納付すべき入学料の全額又は半額を所定の期日までに納付しない者

(6) 転学

本学から他の大学に転学しようとする者は、学長の承認を得なければなりません。

(7) 留学

留学のために海外渡航をする場合は、学生安否確認システムに登録してください。
なお、大学間交流協定校に留学する「交換留学派遣制度」による派遣を希望する場合は、国際課からの通知に基づき、応募手続きを行ってください。

① 留学（交換留学以外）

ア. 学習目的達成に必要な場合、主任指導教員の了承を得て留学することができる。また、留学中は、研究指導教員と常に連絡を保つこと。

イ. 学則第36条の規定により、留学期間は１年を限度として在学期間に算入する。

② 交換留学

本学には大学間交流協定校に留学する「交換留学派遣制度」があります。 交換留学生として派遣されるためには、学内の選考を経て協定校の承諾を得る必要があります。 留学期間は修業年限に含まれ、修得した単位は一定の条件により認定を受けることができます。

2024年交換留学派遣先大学一覧 （2023年11月現在）

協　定　校	国　名	締結年月日
アジア（24校）		
国立インドネシア大学	インドネシア	2021. 08. 26
慶北大学校	韓国	2011. 06. 22
啓明大学校	韓国	2013. 07. 09
建国大学校	韓国	2014. 03. 21
高麗大学校	韓国	2015. 02. 24
淑明女子大学校	韓国	2000. 02. 14
同徳女子大学校	韓国	2005. 03. 30
釜山大学校	韓国	2012. 03. 21
釜山外国語大学	韓国	2016. 07. 12
梨花女子大学校	韓国	2000. 02. 28
タマサート大学	タイ	2007. 06. 13
チェンマイ大学	タイ	2010. 05. 27
プリンス・オブ・ソンクラー大学	タイ	2009. 08. 14
開南大学	台湾	2012. 05. 25
国立政治大学	台湾	2001. 07. 25
国立台北芸術大学	台湾	2002. 01. 29
国立台湾大学	台湾	1999. 12. 17
台北医学大学	台湾	2018. 03. 22
東海大学	台湾	2021. 12. 30
東呉大学	台湾	2023. 07. 10
大連外国語大学	中国	2006. 10. 02
復旦大学歴史学系	中国	2010. 10. 12
北京外国語大学	中国	2005. 10. 17
北京大学歴史学系	中国	2002. 01. 26
中東（2校）		
アルザフラー大学	ｲﾗﾝ･ｲｽﾗﾑ共和国	2018. 04. 18
アンカラ大学	トルコ	2007. 08. 08
北米（6校）		
ヴァッサー大学	アメリカ	2006. 06. 01
カリフォルニア大学サンディエゴ校	アメリカ	2014. 01. 02
カリフォルニア大学デービス校	アメリカ	2010. 09. 30
カリフォルニア大学リバーサイド校	アメリカ	2014. 04. 14
ノースイースタンイリノイ大学	アメリカ	2021. 04. 28
カモーソンカレッジ	カナダ	2020. 09. 10
南米（1校）		
サンパウロ大学	ブラジル	2016. 08. 23

協　定　校	国　名	締結年月日
オセアニア（2校）		
ニューサウスウェールズ大学	オーストラリア	2011. 09. 30
シドニー工科大学	オーストラリア	2021. 04. 07
ヨーロッパ（31校）		
イースト・アングリア大学	イギリス	2021. 03. 25
セントラル・ランカシャー大学	イギリス	2022. 02. 08
ハル大学	イギリス	2013. 10. 02
プリマス大学	イギリス	2018. 08. 18
ロンドン大学キングスカレッジ	イギリス	2013. 12. 02
ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院	イギリス	1999. 08. 05
ロンドン大学バークベックカレッジ	イギリス	2017. 07. 01
国立ナポリ大学オリエンターレ	イタリア	2011. 01. 11
コッレージョ・ヌォーヴォ	イタリア	2013. 03. 25
‘サピエンツァ’ローマ大学	イタリア	2012. 07. 12
ウィーン工科大学	オーストリア	2002. 12. 05
ダーラナ大学	スウェーデン	2019. 06. 18
ブルゴス大学	スペイン	2018. 03. 01
バリャドリッド大学	スペイン	2018. 11. 01
リュブリャナ大学	スロベニア	2019. 02. 05
カレル大学	チェコ	2004. 09. 07
バニャルカ大学	ﾎﾞｽﾆｱ･ﾍﾙﾂｪｺﾞﾋﾞﾅ	2023. 07. 13
ケルン大学	ドイツ	2010. 03. 18
バーギシェ・ブッパタール大学	ドイツ	2002. 02. 24
ブレーメン応用科学大学	ドイツ	2011. 01. 21
ノルウェー科学技術大学	ノルウェー	2017. 09. 18
セントリア先端科学大学	フィンランド	2009. 12. 01
タンペレ大学	フィンランド	2003. 02. 13
クレルモン・オーベルニュ大学	フランス	2009. 08. 28
ストラスブール大学	フランス	2002. 07. 05
パリ・シテ大学	フランス	2008. 02. 01
フランシュ＝コンテ大学	フランス	2023. 03. 13
ボルドー大学	フランス	2011. 03. 01
ワルシャワ大学	ポーランド	2010. 02. 10
ヴィータウタス・マグヌス大学	リトアニア	2018. 11. 12
ブカレスト大学	ルーマニア	2009. 08. 03

※交換留学派遣可能な大学は年度・時期により異なります。本学の海外協定校について、最新情報は以下の大学ＨＰにてご確認ください。

https://www.ocha.ac.jp/intl/900/header-menu/partners/index.html

(8) 転学部及び転学科

学部内の他学科等または他学部への転入（以下「転学部・転学科」という）を考えている学生は、まずは学年担当の教員等に相談してください。所属の学科や転入希望先の学年担当教員、学科長等が相談に応じます（これらの教員の連絡場所や連絡方法が分からないときは、学務課にお問い合わせください）。

転学部・転学科の手続きなどの取扱は、次のとおりです。学務課が窓口になっています。できるだけ早い時期（前期が終わるまで）に願い出てください。

①転学部・転学科を申し出ることのできる学生は、転学部・転学科の時期において在学１か年以上となる見込みの者とします。

転学部・転学科の期日は、４月１日とします。

②「転学部・転学科願」は所定の様式により、学務課（学生センター棟１Ｆ）に前年度12月28日までに提出すること。

転学部・転学科受験許可は、受入れ学科等の了承を得た上、１月の所属学部教授会の議を経るものとします。

この受験許可にあたっては、受入れ学科等の収容人員などの事情が考慮されます。

③転学部・転学科の可否の判定は、以下を総合判定し、受入学部教授会の議を経て決定します。

・入学者選抜試験の成績
・在学中の成績
・転学部・転学科試験成績
・面接

④転学部・転学科の可否は、本人に通知します。

⑤転学部・転学科が認められた者の在学期間は、受入学部教授会の議を経て決定します。

転　学部／学科　願

令和　　年　　月　　日

お茶の水女子大学長　殿

学科長		学年担当	

＿＿＿＿学部＿＿＿＿学科＿＿＿＿講座・専攻＿＿＿＿学年

氏　名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 印

連絡先　TEL ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

下記の理由により、＿＿＿＿学部＿＿＿＿学科＿＿＿＿＿＿講座・専攻　へ

転学部・転学科したいので、許可くださるようお願いいたします。

理由（　　）

学部長		学務課	

⑼　学費

①授業料は、年額（535,800円、2023年12月１日現在による）を半期ごとに納入していただきます。納入方法は、口座振替（自動引落）または銀行振り込みとなります。（事故防止の観点から、原則窓口における現金受付は行いません。）

口座振替（自動引落）の場合は、授業料預金口座振替依頼書により登録された口座から下記指定日（金融機関休業日の場合は翌営業日）に自動引落を行いますので、前日までに、登録した口座に入金願います。

銀行振り込みの場合は、本学指定口座に下記期限までに振り込んでください。（なお振込手数料は本人負担となりますので、ご了承願います。）

前学期分	口座振替　５月27日
	銀行振込　５月中
後学期分	口座振替　11月27日
	銀行振込　11月中

②経済的理由により、授業料の納入が著しく困難であり、かつ学業成績優秀と認められる者に対し、半期ごとに選考の上、授業料の全額または一部を免除、あるいは授業料の徴収を猶予する制度があります。

■ 申請資格

１．本学学部生であって、経済的理由により授業料の納入が困難であり、かつ学業成績優秀と認められる者。

２．独立行政法人日本学生支援機構の給付型奨学金の給付対象となる学部学生。

※　原則として、標準修業年限を超過している者は免除の対象となりません。ただし、特別な事由があると認められる者を除きます。

詳しくは学生・キャリア支援課にお問い合わせください。

⑽　学籍簿変更手続き

入学時に皆さんに提出してもらった学籍簿を基に学生証、在学証明書、通学証明書など各種証明書類の発行や卒業・修了時に授与する学位記を作成しています。学籍簿に記載した住所、本籍、保護者等を変更するとき、あるいは改姓をしたときは、各変更届を必ず提出してください。特に住所は各種証明書類の発行や緊急の連絡の際に必要ですから、変更したときは住所変更届を速やかに学務課教務担当に提出してください。変更届の用紙は学務課にあります。

⑾　休学・退学・復学手続き

さまざまな事情により、休学や退学をしなければならない場合は、各自所属する学科などの学年担当や指導教員とよく相談の上、学務課教務担当で手続きを行ってください。休学可能な年限や在学可能な年限は次表のとおり異なるので、注意してください。

課程等	修業年限	在学年限（修業年限×２）	休学年限（累計）	在籍年限（計）
学部	４年	８年	４年	12年
３年次編入学	２年	４年	２年	６年
博士前期課程	２年*	４年*	２年	６年*
博士後期課程	３年*	６年*	３年	９年*

※ 長期履修制度を利用する場合、修業年限・在学年限・在籍年限については、＊印の年数に延長する年数を加える（休学年限は変わらない）。（注）休学期間は、卒業・修了の要件としての修業年限に含まれない。

8 学生サポート

(1) 公式メールアドレスについて

大学が皆さんに付与する公式メールアドレスには大学からのお知らせや、非常時の確認などのＥメールが配信されます。大学内だけではなく自宅からも見ることができますし、設定することで携帯へ転送することも可能ですので、常にチェックできるようにしておいてください。利用方法については情報基盤センターなどでご確認ください。

公式メールアドレスは以下のアドレスです。

g（学籍番号）@edu.cc.ocha.ac.jp

※学籍番号部分には自分の学籍番号が入ります。

(2) 本学ホームページの紹介　https://www.ocha.ac.jp

大学で行われている研究やシンポジウムなどの告知が数多く発信されています。履修に関することや授業のシラバス、行事予定なども確認することができます。

また、奨学金や授業料免除、学生寮のことなど最新情報が掲載されていますので、積極的に活用してください。

大学ホームページで確認できる一覧

学生生活関係	奨学金　授業料免除　授業料　学生寮（音羽館、小石川寮、お茶大 SCC） 課外活動　学園祭　各種証明書 学生相談室　就職　キャリア相談　ピアサポートプログラム　拾得物・遺失物
履修関係	休講情報　教室変更　時間割変更　インフォメーション　履修登録日程　成績通知日程 休学・復学・退学の手続き　シラバス　教務年間日程　教員免許など各種資格取得 学部・大学院教育研究者情報　各学部・大学院紹介　科目等履修生・研究生・聴講生の募集 証明書発行の手続き
その他	国際交流（留学）　本学の歩み　同窓会・後援会・生活協同組合 イベント情報　公開講座　セミナー案内　大学刊行物 図書館・情報基盤センターなど各種センター利用案内

(3) 学生ポータルサイトの紹介

大学ホームページ以外にも、学内はもちろん学外からでも授業や学生生活に関する情報にアクセスが可能な学生ポータルサイトを開設しています。休講情報や教室変更など授業に関する情報や学生生活上の重要な情報を随時掲載していますので、毎日必ずチェックしてください。

https://tw.ao.ocha.ac.jp

※なお、学生ポータルサイトへのアクセスには入学時に配布した「お茶大アカウント」が必要です。

(4) Facebook・X（旧Twitter）

企画戦略課（広報担当）では、お茶の水女子大学の公式FacebookおよびX（旧Twitter）を用いて情報を発信しています。ぜひファンやフォロワーになって最新情報をチェックしてみてください。

［ Facebook ］https://www.facebook.com/ochadai

［ X（旧Twitter）］アカウント：OchadaiNews　https://twitter.com/OchadaiNews

⑸　学生証（ICカード）

学生証は大学の内外に対してお茶の水女子大学の学生であることを証明するものであり休日及び夜間の大学施設への入退館、図書館の利用、定期検診の受診、各種証明書の発行などにも学生証が必要です（発行までに1カ月程度かかります）。

■ 注意事項

① 本証は常に携帯し、必要に応じて提示しなければならない。

② 本証を更新するとき、または退学などによって学籍を離れたときは、返却すること。

③ 本証を紛失したときは、直ちに学生・キャリア支援課に届け出ること。

④ 本証は、他人に貸与または譲渡することはできない。

■ 再交付

紛失または著しく破損した場合は、直ちに学生・キャリア支援課で再交付の申請手続きをしてください。その際、写真（4cm × 3cmサイズ）が必要となります。

改姓などの場合は、再交付手続きと同時に氏名などの変更手続きを行う必要がありますので、学生・キャリア支援課および学務課まで届け出てください。

■ 更新手続き

留年、休学などにより、本証の有効期限を超えて在学する場合には、学生・キャリア支援課で更新手続きを行ってください。

⑹　諸証明書の発行

学生が卒業見込証明書、成績証明書を希望するときは、学生センター棟２Ｆに設置されている自動発行機で受けとることができます。そのほかの証明書や卒業後に卒業証明書等を希望するときは、学務課（学生センター棟１Ｆ）備付けの「証明書交付願」に記入し、提出してください。

⑺　教務関係事務の相談

履修上の各種の疑問は、学年担当教員や学務課（学生センター棟１Ｆ）に問い合わせてください。事務担当窓口で解決できないときは、委員会や教授会等に諮りますので、学務課に相談してください。

⑻　教学IR・教育開発・学修支援センター

「複数プログラム履修」に関する履修相談、ＧＰＡ制度、カラーコードナンバリングに関する相談等、その他、総合的な学修相談、学修の支援を行います。

⑼　国際教育センター

外国人留学生及び海外留学を希望する日本人学生に対し、修学及び生活に必要な教育・指導助言を行うとともに、地域と連携した留学生のための支援事業を実施します。

⑽　外国語教育センター

ランゲージ・スタディ・コモンズ（共通講義棟3号館102、103、105室）での外国語学習指導、コア外国語教育と本学企画の海外語学研修への協力等を行います。

⑾　掲示の場所

事務から学生に連絡する事項は、学生ポータルサイト及び掲示板に掲示します。また、学部に関することは、各学部の掲示板に掲げることもあります。見落としのないよう、毎日一度は掲示に注意してください。

⑿　窓口別連絡先

部署名	TEL	メールアドレス	窓口取り扱い時間	場　所
学務課	03-5978-5141	kyomu@cc.ocha.ac.jp	平日 8 時 30 分から 17 時	学生センター棟 1 階
学生・キャリア支援課	03-5978-5147	gakusei@cc.ocha.ac.jp	平日 8 時 30 分から 17 時	学生センター棟 2 階
国際課 ○外国人留学生に関すること ○海外派遣に関すること	03-5978-5143 03-5978-5722	ryunai@cc.ocha.ac.jp ryu@cc.ocha.ac.jp	平日 8 時 30 分から 17 時	学生センター棟 3 階
財務課 （経理担当）	03-5978-5119	keiri@cc.ocha.ac.jp	平日 8 時 30 分から 17 時	大学本館 1 階 114 室
企画戦略課 （危機管理担当）	03-5978-5790	anzen@cc.ocha.ac.jp	平日 8 時 30 分から 17 時	大学本館 1 階 119-2 室
保健管理センター	03-5978-5156	Hp-c-health@cc.ocha.ac.jp	平日 9 時から 17 時 （12 時から 13 時を除く）	保健管理センター （食堂となり）
附属図書館	03-5978-5840	lib-serv@cc.ocha.ac.jp	平日 8 時 45 分から 21 時 （授業のない期間は 17 時まで） 土 10 時から 18 時 日 13 時から 18 時 （授業のない期間は閉館） 一部サービスは 平日　9 時から 12 時 平日 13 時から 17 時	附属図書館
情報基盤センター	03-5978-5885	it-center@cc.ocha.ac.jp	平日 10 時から 17 時	附属図書館 1 階事務室
学生相談室		gsoudan@cc.ocha.ac.jp	平日 10 時から 16 時	人間文化創成科学研究科 2 階 208 室、209 室
ハラスメント等 人権侵害相談室	03-5978-5936	shsoudan@cc.ocha.ac.jp	開室日の 10 時から 16 時 開室日は HP に月ごとに掲示	人間文化創成科学研究科 3 階 306 室
学生・キャリア支援センター		care-advis@cc.ocha.ac.jp	平日9時から 17 時	学生センター棟 2 階
教学 IR・教育開発・ 学修支援センター	03-5978-2047	l-sc@cc.ocha.ac.jp	学生ポータルサイト及び Moodle に掲出	学生センター棟 1 階
国際教育センター ○受入：外国人留学生対象 ○派遣：海外留学希望者対象	03-5978-5965 03-5978-5913	global-kyoumu@cc.ocha.ac.jp info-ipo@cc.ocha.ac.jp	平日 10 時から 17 時 平日 10 時から 16 時	学生センター棟 3 階 国際交流留学生プラザ 1 階
パソコン相談担当	03-5978-5354	pc-skillup@cc.ocha.ac.jp	パソコン相談担当 ホームページに掲出	共通講義棟 1 号館 1 階 105室
湾岸生物教育研究所 ○館山野外教育施設の予約	0470-29-0838	wangan@cc.ocha.ac.jp	平日 9 時から 17 時	

学生関係の窓口業務と諸手続き一覧

担当窓口	手続名		期限
学務課 各学部担当	履修・授業関係	履修相談、学業成績、授業時間割（休講・変更）・試験・補講	その都度
		履修登録	別に指示
		追試験願	1 週間以内
		※卒業（見込）証明書	4 日前
		※成績証明書	4 日前
		転学部・転学科願	前年度 12 月 28 日まで
		他大学等において修得した単位等に係る認定願	その都度
	科目等履修生 研究生関係	科目等履修生・聴講生・研究生受付	毎年受け付けされる期間内
		単位修得証明書発行	4 日前
学務課 教務担当	免許・実習関係	教職関係（教員免許状・教育実習）	その都度
		そのほか資格（学芸員課程）	〃
		教育職員免許状一括申請受付	別に指示
		教育実習履修届	別に指示
		教員免許状取得見込証明書発行	4 日前
		単位修得証明書発行	14 日前
	身上異動関係	住所変更・氏名変更届	その都度

担当窓口	手続名		期限
学務課 教務担当	身上異動関係	休学願	4月適用の場合2月末日まで 10月適用の場合8月末日まで
		復学願	
		退学願	
		保護者等変更届	その都度
国際課	外国人留学生関係	外国人留学生に関する事（奨学金・在留資格・証明書等）	その都度
	海外留学関係	海外留学に関する事	〃
財務課 （経理担当）	授業料納入	授業料に関する問い合わせ	その都度
		授業料の納入領収書発行	その都度
湾岸生物教育研究所	施設使用	館山野外教育施設使用申込書	その都度
企画戦略課 （危機管理担当）	施設使用	自転車（バイクを含む）駐輪許可申請に関する事	その都度
情報基盤センター	パソコン・ネットワーク利用	学内でのコンピューター利用に関する相談・回答	期限なし
		お茶大情報アカウントに関する事	〃
		マイパソコン関係	〃
		パソコン活用のための学習支援・相談・回答	〃
		個人利用パソコンの貸出	その都度
学生・キャリア支援課	学生生活関係	拾得・遺失物	その都度
		下宿・アパート紹介	〃
		学生証（再発行含む）	〃
		※在学証明書	〃
		※学割証	〃
		通学証明書	〃
	課外活動関係	徽音祭	
		課外活動施設	
		課外活動団体設立	その都度
		集会届	使用日の8日前まで
		ビラの配布、ポスター掲示等届け出	その都度
		登山届	出発日の8日前まで
		テニスコート利用届	その都度
		ボランティア活動参加	〃
	奨学金・ 授業料免除・ 学資貸付関係	奨学金（日本学生支援機構、地方公共団体、学内奨学金、その他）	別に指示
		授業料免除申請書	〃
		授業料徴収猶予（月割分納）申請書	〃
		学資貸付金申し込み	その都度
	寮関係	学生寮（音羽館・小石川寮・お茶大SCC）の事務	
		入寮願	別に指示
		退寮届	その都度
	キャリア支援関係	進路・キャリア相談	その都度
		就職情報・資料収集	〃
		家庭教師・アルバイト	〃
		進路登録	〃
		推薦書	〃
	保険関係	学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険	〃
学生相談室	保健関係	個人相談	〃
		心理教育プログラム（グループワーク等）	〃
ハラスメント等人権侵害相談室		セクハラ・パワハラ・アカハラ等人権侵害への相談窓口	〃
保健管理センター		健康相談・体調管理など	〃
		※健康診断書	〃
教学IR・教育開発・学修支援センター		総合的な学修相談、学修指導などの支援	その都度

※自動発行機で発行可能（卒業証明書は卒業見込証明書のみ発行可能）